元隈府商工会専務理事

高野徳次――が語る郷土の話題

昭和二十九年十月湧泉

菊池温泉掘削物語

娘婿野田（サンケイ新聞社ニューメディア開発部長・編集委員）の助言や、商工会村川会長・有田副会長の了承も受けず、掘削指導の鹿児島大学露木博士外の序文も依頼せずの全く独自の自費著作である。

出版は大連時代の教え子吉野任子夫君経営の三声社の厚意に甘えて完成したものである。

昭和二九年十月湧泉

菊池温泉掘削物語

隈府商工会
会長　村川信彦
副会長　有田義行
理事長　川瀬勝
専務理事　高野徳次

菊池温泉掘削物語 ※ 目次

筆者略歴／1

♨昭和九年二四九名が奏でた
菊池温泉掘削の序曲／11

♨安易でなかった温泉開発
温泉掘削と町議会／23

♨信ずることは尊いことである
夢物語りと温泉掘削決意／29

♨商工会あげての強力スクラム
掘削事業に対する布石万端／39

♨郷土開発の根源
掘削地点決定／49

♨華やかさの中の不安
待望の起工式／55

♨神の恵み「地獄の釜」
天恵の湧泉四十五度三分／65

♨残しておきたい協調の記録
各部それぞれの活躍／87

♨菊池観光の華
殷賑の菊池温泉誕生／121

♨何人かに限られた賞状
商工会に残したい感謝状／131

あとがき／141

追記

商工会の足跡／144

筆者略歴

高野徳次（たかの　とくじ）

明治三十五年二月熊本県菊池市生れ。
熊本第二師範第一部卒業。関東州旅順師範学堂研究科修了。大連音楽学校作曲科専攻。
熊本市壺川、大連市日本橋、南山、聖徳、嶺前、

奉天市千代田各小学校訓導。　大連商業、大連協和実業講師。関東州教科書編集委員。　国際運輸㈱、大連運送㈱勤務。旅順耐火工業㈱副社長。満州第八〇二部隊入隊。シベリア抑留二ヶ年。隈府商工会専務理事。　隈府会館㈱、菊池観光ホテル支配人。　熊本工機㈱、九州箸㈱社長。　隈府温泉㈱（夢の湯）社長。　隈府二十日会常任幹事。　菊池市文化財保護委員。　日本剣道連盟教士号、菊池剣道連盟会長。　菊池市物産振興会会長、熊本県物産振興会理事。　熊本県竹材協同組合理事長、熊本県竹産業連合会会長、全日本竹産業連合会常任理事、同上東京出張所所長、日本の竹を守る会理事、全国特用林産振興会監事。

感謝状と表彰状

(1)
三十一年十二月二十日
感謝状（商工会運営）
菊池商工会会長　有田　義行

(2)
三十二年五月十日
感謝状（償還組合創設）
菊池商工会会長　有田　義行

(3)
三十一年十二月十七日
感謝状（食品衛生向上）
熊本県知事　桜井　三郎

(4) 三十五年五月二十日
感謝状（食品協会運営）
菊池保健所所長　田中　穆

(5) 四十年六月十日
感謝状（社会体育・剣道）
菊池市市長　木下　堅

(6) 四十七年二月十三日
感謝状（菊池剣道育成）
菊池剣道連盟

(7) 四十九年四月一日
感謝状（菊池温泉開発）
菊池市市長　木下　堅

(8) 四十九年十月八日
表彰状（竹産業振興）
全日本竹産業連合会会長　上田弘一郎
(9) 五十四年三月四日
感謝状（菊池剣道隆昌）
菊池剣道連盟
(10) 五十五年一月二十六日
感謝状（会務尽瘁）
隈府二十日会
(11) 五十五年二月一日
感謝状（市物産振興会創立）
菊池市物産振興会

♨昭和九年三四九名が奏でた

菊池温泉掘削の序曲

史蹟と
桜の地に
温泉

昭和九年二四九名が奏でた

菊池温泉掘削の序曲

茲菊池は、鞍ヶ岳・八方嶽の峰聳える菊池沃野を経て雲仙を望み、菊池川・迫間川に抱かれた風光明媚で豊穣の地、この菊池を菊池氏の本拠地と定めたのは延久二年であって、以来五百年歴世二十四代に渡って一貫不動の節義を守り尽忠勤王の大義を貫き、一方には一族一門相承けて学問を尊び肥後文教の淵源とするなど政治文化の中心地として後世に光彩を放つ誇り高き地である。

さて、昔からこの地の住民が求めた家庭的慰安は、隣の山鹿・熊入・宮原・近郊杖立（つえたて）・湯の谷・戸下・日奈久などの温泉であって、湯浴（ゆあみ）後の囁きは「菊池

にも温泉があったらナー」をかこつ願いであった。

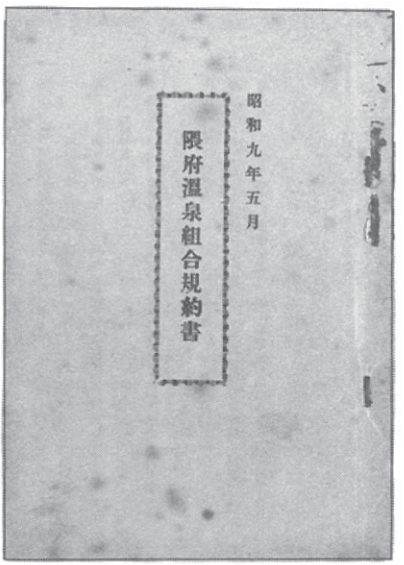
誇り高い史蹟、菊池の里の豊かな恵み、春は桜につつじ、初夏は新緑、夏は九州随一の清流菊池渓谷、秋は紅葉。菊池の観光開発の決め手は温泉だとの願望は、ここ菊池をあげてのものであった。

巷説紛々

或は南田の玉祥寺温泉を本格化して迫間川を堰き止めて水郷を作り、中町の裏崖から温泉に向けデラックスな掛け橋を設け、八方嶽を含む景観をバックにした一大遊園地を構成して熊本に於ける宝塚的観光地にしては――。

或は北宮神社前の菊池川辺に温泉と風景を組み合せた観光水郷温泉郷は如何なものか――。

或は眼下に菊池沃野を眺め遠く金峯山を含む雲仙を望み、春は桜・つつじ、秋は紅葉に包まれる菊池公園の高台と、尽忠菊池氏を祭る菊池神社を近くに頂



く温泉郷は――。

などなど、夢を求める気持は昔からのものであって、温泉願望はこの地に住む者の悲願であり、単なる思い付きや時流に乗せられたものではなかった。

この温泉願望解決に初めに乗り出したのが、五十年以前の昭和九年五月、三四九名の先覚者であった。

「隈府町繁栄ヲ目的トスル出資金ヲ以テ、南田ニ温泉掘削作業ヲナスモノト

スル」の目的を掲げた『隈府温泉組合規約書』に協賛して一口五円、総口数六〇〇口計参阡円の出費を了えて、現在の南田玉祥寺温泉地を選定して掘削を始めたのであった。

その熱意には満腔の敬意を表するものであるが、遺憾ながら事前調査なしで、而も非力な機械力の為か掘削事業は中途挫折して山鹿や阿蘇の後塵を受け「温泉が有ったら」の嘆きの声のみが残されたものであった。

戦後いちはやく再建された隈府商工会（現菊池商工会）は、商工対策として税金旋風、金融問題等に対処するための委員会、理事会を頻繁に開催し協議を重ねたものであったが、その会議後の話題は決って温泉問題であって、この地での宿命的重要懸案事項でありながら財源に阻まれて、願望だけが役員の胸に生きていたものである。

一方戦後の地方開発論は旺盛であって、中でも阿蘇産山（うぶ）を起点とする産山線、

隈府と九大線森とを結ぶ森隈線などの話題が中心であったが、反面通過駅となる事が憂慮されその対策としても温泉問題が商工会内に強く燃えてきたものであった。

村川商工会会長は商工会内の温泉熱昂揚にかられて、その事が強く脳裏に焼き付き口癖のように「町発展の為温泉掘削はワシの使命だ」との決意を側近に漏らして居られた。そして温泉掘削決意の会長の公的発言があったのが、昭和二十六年三月二十日の隈府二十日会（ライオンズクラブ・ロータリークラブに似た町内公共団体の長の会）の例会の席であって、その日の意見発表の話題は「観光隈府に寄す」であった。会長は日頃の願望の発露から「私は温泉を掘ります」と昂奮気味の力強い発言をなされた。

温泉湧出可能に何の裏付けもない時での自信あり気な会長発言に出席の会友一同啞然としながらもさり気なく聞き流したものであった。しかし二十日会常任幹事で商工会専務の私には何故かその発言が妙に頭に残って、この事を会長

の空念仏に終らせてはならぬと思った事を現在でも生々しく覚えている。

もしあの時私が会長発言を軽視して裏面の動きを怠っていたら、今日の菊池温泉は姿を現わしてはいなかったかもと妙な感じがしてならない。

同席の福島土木組合長から、佐敷町の剣木山海岸で温泉掘削に成功しているので、調査して見てはとのアドバイスがあった。私は会長発言の重視の線に添うべく緊急商工会理事会を開いての協議の結果は、

・学者の意見を聞き、科学的根拠を見落さぬこと。
・最近の掘削成功地の実情調査と資料を集めること。
・町当局の受取り方、商工会員及び一般町民の協力度の把握が必要であるなど、事は慎重を要し軽挙を慎しむことになったが、私は逸る心を押え切れず次の行動をとった。

二十六年五月七日

熊本大学理学部に、我が国で名高い地質学者松本博士に教えを乞うた。先生

の教えからは事前調査の大切さを確認して帰った。

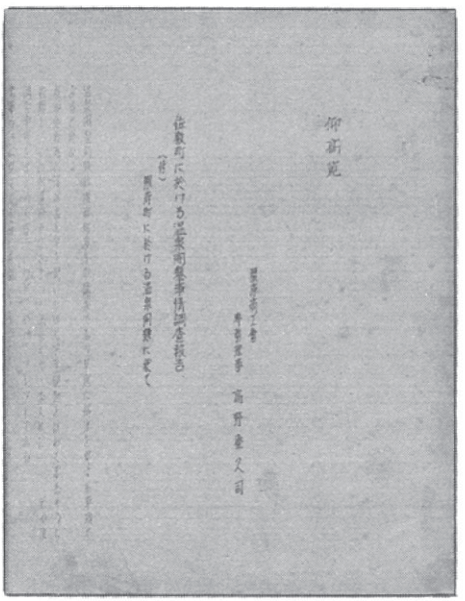
同年五月十二日

佐敷町役場を訪ね、山本町長・助役他、関係委員から、剣木山温泉掘削事業に就いて詳細な説明と貴重な資料提供を受けた三日後、調査事項報告のための理事会を開き、温泉掘削に当っての基本点として、

・事前調査を入念にする。
・強力な機械力に依る。
・最低一千万円の資金準備が必要である。

ことを報告した。この報告に対し出席理事の中から早くも一千万円云云の囁きも聞えてきた。(註=当時の一千万円は現在の数億円に当るか?)

数日後の私は『佐敷町に於ける温泉掘削報告書』なるガリ版刷り(十五頁もの)レポート百部を用意して、当局・商工会首脳・町内有識者に見てもらったところが、その反響は意外と多く、俄然町内の温泉ブームが高まって掘削意慾


御前覧

温泉掘削工者
専任技師　高野重久調

佐敷町に於ける温泉発掘事情調査報告
（佐）
隈府町に於ける温泉掘削に就て

が燃えてきた感があって、後日の醵金募集の根廻しの役目を果したものとして喜びに堪えなかった。

この報告書の付記として『隈府町に於ける温泉掘削問題について』という一文をのせたが、これに対して

(1) 確実に温泉が出さえすれば一千万は安い。

(2) 「湯が出た」の声であとはお互の腕だ。

(3) 出るか出ないか判ら

ぬ温泉掘削に大金を投入するより人工温泉でよい。など色々と考え方はあったが、結論として、入念な科学的事前調査、経費との睨み合せ、立地条件を大切に、などの諸点の徹底的検討を求める街の声がたかまって、温泉問題は次第に空論を許さぬ早期解決を要する重要懸案として、動かせぬ世論となって固まってきた。

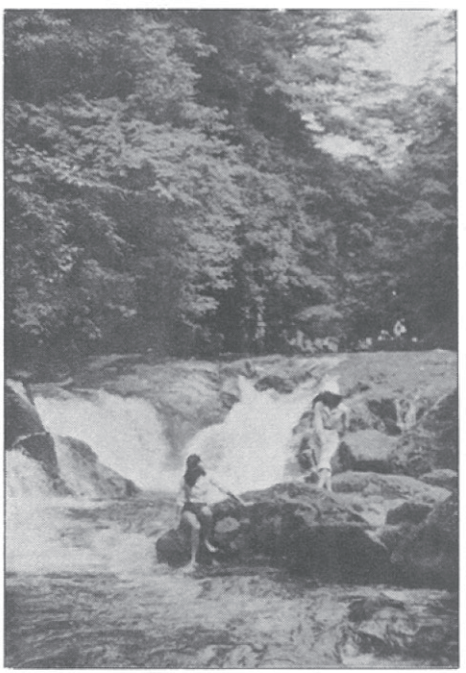
同年八月二十四日

理事会で私の調査による剣(つるぎ)木山温泉掘削レポートの報告の重要事項である、掘削費用一千万円が論議の的となって甲論乙駁の末、「一千万円を要する大事業は弱体商工会では重荷だ、幸い会長は町会議長でもあるので町側と相談あっては」との意見が大勢を占めて、会長は本意なく町長にこの旨を要請する事となった。

ここに於いて商工会願望の掘削事業は、経済的躊躇によって掘削に対するイニシアチブは町議会に移譲せざるを得なくなり、議会では文化委員会がこの件

を担当し善処することに落着した。

会長始め商工会首脳は問題落着に一応安堵の態をとったものの、最初から手掛けた問題でもあって隠し切れぬ寂寞を感じ天を仰いで切歯扼腕の体であった。



九州随一の清流菊池渓谷

♨ 安易でなかった温泉開発

温泉掘削と町議会

♨ 安易でなかった温泉開発

温泉掘削と町議会

温泉掘削のイニシアチブは町に移った。町議会でも温泉掘削を町発展の柱として重視し、多額の資金から見て充分な事前調査が必要だとの見解で文化委員会が担当することとなった。

とは申せ、世間では掘削事業がいとも簡単に町委譲となったものと受取られ勝であったが、商工会内に燃える掘削事業への熱情は軽々しく拭い去られるものではなく、再び商工会が温泉掘削のイニシアチブを握るまでの二年半の間、町当局の掘削事業への不熱意や積極を欠く調査に歯痒いさを語りあったものであった。

二十七年七月十一日付文化委員会が発表したザラ紙一枚の『温泉調査概要報告書』によると、文化委員会は同年一月から六月にかけ断片的に斯界の権威熊本大学松本教授、鹿児島大学露木教授両先生を招聘して、水質調査・温度調査、電導度及び地形調査などの現地調査が行われたと述べてある。

松本教授は火山学の泰斗であるが温泉は専門外で、地形調査や阿蘇火山系から見たこの地の温泉湧出に関する調査報告は有益であった。

露木教授は温泉専攻の博士で、その報告書によると、『隈府地区一帯は溶岩層が二段になっていて、大体三百尺(約九十メートル)位には温水がある様に思われる。仮に温泉があるとすれば、地形から見て層状温泉であると断定され、一千尺位で四十度前後の温泉があると思われる。層状温泉だから一ヶ所掘って温泉が湧出したら、その附近なら何処を掘っても温泉は湧出する。掘削場所は大方の予想外の現在の菊池温泉地が良い。』となっている。

湧泉成功の今日から見て、先生の全面的中の慧眼には頭の下る思いである。

七月十一日の調査報告後の町議会は、何故かわざと温泉問題を避けるかのようにノーコメントをきめ込み、議長である会長も口を噤んで何の説明もない。これに対して商工会側の焦りは、憶測が憶測を呼んで、空転の焦躁に約二年半を過ごして了って、尻切れトンボの憂いさえあった。

二年半経過の二十八年一月の町議会で隈田町長は、

「温泉掘削などの一種の投機的事業を町営で遂行することは頗る危険な事でこの種の事に町民の税金を使い度くない。若し遂行するとすれば民間資金に依るべきであろう。」

との見解発表がなされ、町営に依る掘削事業の見送りが残念ながら決定付けられて了った。

一千万円を要する事業で、投機的事業と決め付けられた事を一応納得出来ぬでもないが、掘削事業の難しさが今更ながら身にこたえた。

商工会理事会では、町議会の掘削事業断念決議やむなしとしながらも、心あ

る商工会員の中には強い反発もあった。中でも会長はじめ副会長、理事長のほか、主だった役員理事の間には強烈な悲願達成への炎が再燃していた。

このようにして一旦沸きたった温泉ブームは、財源難による躊躇と、町長、町議会の慎重論に押えられ、掘削事業は立消えとなるかとも見られたが、商工会内に依然として内燃を続ける掘削熱は消え去ったのではなかった。

世論の動向では、温泉問題はもはや懸案の域から脱して、町振興の重要ポイントとして掘削断行説が意外と強く、若し掘削不成功に終った節は「温泉があったらなア」の願望を止めて、他の発展策を求むべきだとの至当な声も聞かれ、掘削に当ってはいい加減の掘削でなく、二度と繰返し得ぬ徹底した掘削をという正論者も居たし、放って置けば誰かやるという身勝手な会員も散見された。

町議会決議になる、掘削事業町営見送りによる温泉ブームの後退を憂うる反面、巷には掘削希望を捨てぬ熱意も強く温泉掘削をめぐっての揺れ動くうちに二十八年は過ぎて行った。

♨ 信ずることは尊いことである

夢物語りと温泉掘削決意

吉祥天女立像

♨信ずることは尊いことである

夢物語りと温泉掘削決意

二十六年三月二十日

この日は隈府二十日会例会日で、会長の「私は温泉を掘ります」と発言があって、後日開催の商工会理事会ではこの会長発言支持者が案外に多く、温泉問題は商工会のイニシアチブで展開することに決議された。しかし資金問題で掘削事業は町営となって、学者の現地調査があったものの、一向に事は進捗しないまま二ヶ年半を空費するなどで、町当局は重荷を感じたのか、その結果は町議会の掘削断念決議となり、再度商工会にイニシアチブはもどってきた。

掘削問題は一時影を潜めた感がしないでもなかったが、会長はじめ心ある商

工会役員の中には温泉願望は町の将来を思う心から依然として燃えていた。

中でも会長の温泉熱は強烈であって、『村川信彦記』に、私は温泉熱に浮かされてうたた寝の間も脳裏から温泉の事が離れぬ有様で、そして『夢』を見ました」と述べてあるが、私は二十九年八月十日、第一回測温の現場で、会長から「夢物語り」を初めて聞かされた。

会長は夢のことはこれまで一切口外してなかったので私は異様な気持で聞いた。

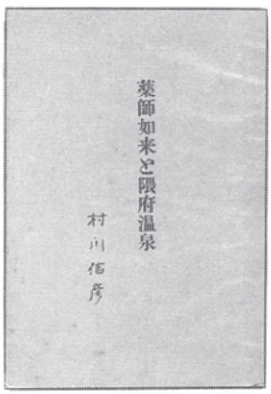
次に会長の『薬師如来と隈府温泉』からその夢物語りの一部を引用しよう。

＊　＊　＊

「夢物語り」

……そして数ヶ月後の明け方私は町全体が一眺出来る城山の一角に立っていました。

と突然下の方から姿は真白で目もさめる様な銀鱗の白龍が登ってくるのです。私は思わず「こんな奇麗な龍は見たことはない」と呟くとその後に立っていた三十歳位の美しい女の人が「会長さんあれは親龍でして後の子供龍をご覧なさいませ」と言うので指差す寺の馬場の方を見ると沢山の子白龍が一面にモウモウと立ち込める湯煙りの中に戯れて居るではありませんか。私は「この下は地獄の湯壺だろう」という言葉が喉に詰って目が覚めました。



ああ夢だったのかと思うと同時に私の脳裏にはこの夢物語りは温泉熱の為だと笑われるかも知れぬので一切自分の胸に秘めておく事に決めた。床の中で明け方の夢を考え直してみて、この夢は温泉が出るという神の啓示ではないだろうかとの気持が沸いて来て、温泉掘削への新たな決意となって勇気付けられた」

と述べられてある。

その朝、会長は夢の啓示に勢い立って隈田町長私邸を訪ねて、次の重大対談がなされている。

以下『村川信彦記』から引用すると

その日の朝九時すぎ高ぶる気持ちを押えて町長宅に出向いた。

開口一番「町発展の為どうしても温泉を掘削して下さい」と申入れた。

勿論昨夜の夢の話はしなかった。

町長は、「村川さん貴方の気持は良く解るが町議会で一千万円の大金投

入は危険だとして一旦否決された事だし」と丁寧に断られたが私は「旅行者をこの町に停める態勢を整える為にもどうしても温泉が欲しい。もし商工会が掘削を担当したら町の助成は考えて貰えますか」

と切羽詰った気持の私の申入れに対し、しばらくの間考え込んでいた町長は、

「二百万円位なら考えましょう」

との好意ある回答があった。

町議会議長の私の熱意と町民への責任を考えての精一杯の好意だと感じこの言葉に甘んじて「では私が引受けて掘って見ますからよろしく」と町長に約束して帰宅しました。

と述べられている。

町発展は温泉より外はないという一途な考え方には異様な迄の村川色があって〝俺には常に神がついている〟と凝り固まったものがある様に、側近の私に

は感ぜられた。

隈田町長と会長との談合の結果を、副会長・理事長・専務の首脳は同意し、商工会理事会でも協力決議となって、至極スムースに事が運ばれ、当地特色の政党色も掘削事業にはその臭もなく、又儲け主義の体臭も全然ない、全町あげての快挙としての出発ということになった。

温泉広場にある薬師堂には、私の絵の恩師高木古泉先生の筆になる、集り来る白龍の上に立つ薬師如来の尊像が安置されて、菊池温泉の守り神としてお祭りしてある。

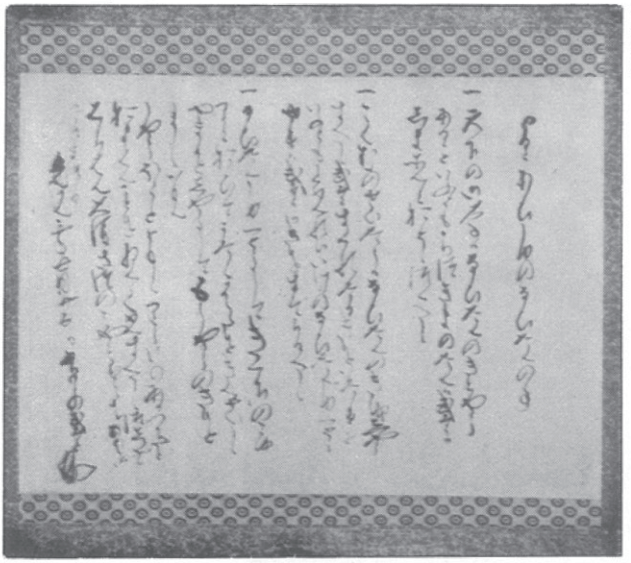
世間では会長の夢物語りを一笑に付す者もいないでもないが、夢物語りは物語りとして素直に受入れる寛容さがあってほしいものだと思う。この夢物語りを菊池温泉の最良の由来記として、後世に残せる様な手段はないものだろうか。

現に山鹿の鹿物語り、杖立の病人と杖物語りなど結構観光材として生かされ

いる。

私は会長の夢物語りに尾鰭を付けて、温泉の守護神薬師如来のご慈悲を菊池温泉に結び付ける商魂があって然る可きだと思うが、残念ながらその思慮のなさを薬師如来は淋しく思っていなさるのではないだろうかと思う。

隈府商工会・村川会長



♨ 商工会あげての強力スクラム

掘削事業に対する布石万端

待望

♨ 商工会あげての強力スクラム

掘削事業に対する布石万端

二十九年一月十七日

この朝、会長は夢の啓示で意を決して町長私邸を訪ね、掘削事業の促進を求めたが、町長に諭されて商工会が掘削事業に当る事となって、町は二百萬円の助成金負担で話は決った。

会長はその足で商工会事務所に来所して、掘削遂行の決意を告げ、副会長・理事長・専務の同意があって即刻行動開始となった。

然しながら三十年経過の今日考えさせられることは、商工会理事会の決議も通さず首脳部だけで掘削決行の決定がなされた事に、何ら異議を挟さむ者がな

かった事は時宜の力であったものと思われる。

私は会長の命に従って、早速醵金帳と会長専用の自転車を講入した。

そして醵金簿第一頁には、二十万円村川信彦、有田義行、川瀬又勝と墨痕鮮かに記入され、自転車のペダルを踏む会長の醵金活動はこの日から始められその熱意には異様な気迫を感じたものであった。

商工会の有力者は二度三度と足を運ぶうちに、二十万円十万円と心よく醵金に応じて下さるし、身を粉にして働いて溜めた金を私の夢の実現に進んで醵出されるそれらの好意を裏切ってはならぬ気持であった。……

と『村川信彦記』に述べられてある。

会長の醵金募集が日を重ねるにつれて、町内の温泉ブームは高まる一方であった。その間副会長・理事長・専務は会長単独の醵金運動を妨げぬよう行動を慎しみ、会長の醵金募集活動への影の配慮を以て醵金運動の促進を申合せた。

醵金運動の総元締の立場に立っての、理事長の会長への助言は会長の励みと

なり、副会長の気配りの勇気付けは会長の熱意をかき立て、専務は側近者らしく、会長の手足となっての運動進展の先鋒となるなど、会長を囲む首脳部のスクラムは強固なものであった。

こうして一月十七日に会長単独の醵金募集が始ってから、奮迅の奔走によって三月末には早くも四百二十万円の予約が醵金簿に記載され、醵金募集の目安もつきお互に喜び合ったのをおぼえている。

四月十二日

左記十二名の幹部理事が集まって緊急会議が開かれた。

参まった者、会長、副会長、理事長、専務の外、植田、河崎、高野(喜)、大山、湯村、井上、坂井、末崎の諸氏であった。

この会合では、今までの会長の決意から単独募金運動、そしてその成果について説明がなされ、掘削事業のメドも立ったとして今後は商工会主体の活動に展開したいとの事に、出席者全員の賛成があって理事会開催を急ぐことになっ

った。

四月十四日

理事会は次の決意呼びかけで開催された。

(1) 温泉掘削は町発展の重要事項であり、又一大宿命的な重要懸案事業でもある。

(2) 問題解決には、会員は勿論各方面の協力を仰いで、商工会が事に当るのが至当で、その為には強い決意が必要である。

との決意があって、会長から、事業経費目標一千万円のうち醵出予約高四百二十万円、町助成金二百萬円、残三百八十万円を一般商工会員及びその他に求める必要があるとの説明があった。

理事長から、事業推進に就いては商工会内に特別委員会を設けて、民主的で公正な運営に当ると説明があった。この件につき満場一致で賛成があった。

四月十七日

先日の理事会決定に従う、特別委員会の委員五十名の委嘱があった。

特別委員会委員

△上　町　有田茂男、佐々竹之、緒方　勲、木村大助。
△中　町　有田義行、右田忠吉、高田充雄。
△下　町　河崎郁郎、高野喜一、古賀　昇、城　義正。
△立　町　金子辰喜、牧野　正、小田政次、隈田研吾。
△迎　町　板井義秋、伊藤勘次。
△横　町　湯村長八、大橋義夫、村川光雄、隈部健一、清田甚佐久、岡山二郎。
△切　明　植田生男、福村　登、中川静男、橋爪末喜、酒井虎雄。
△立　石　井上烈夫、大山唯義、上野千秋、堤　博。
△出　端　末崎成次、野口　貞、横手　孜、上村仁吉、中村　潔、魚住一海。

△栄　町　川瀬又勝、横田六郎、本田勝次、小池忠一、高野徳次。
△正院町　村川信彦、田崎伊三喜。
△西　正　松本文雄、富田　弘、村田浩介。
△北　原　本田　勇、益崎正男。

合計五十名。

四月十九日

特別委員会が開かれ、規約の採択や常任委員の選出がなされた。

○常任委員会（二十名）

会　長　村川信彦。
副会長　有田義行。
事務局長　高野徳次。
委員長　川瀬又勝。
委　員　緒方　勲、木村大助、高野喜一、河崎郁郎、城　義正、

伊藤勘次、板井義秋、植田生男、福村　登、井上烈夫、
中村　潔、上村仁吉、金子辰喜、岡山二郎、村田浩介、
田崎伊三喜。

五月十一日

特別委員会から次の十五名の相談役が委嘱なされた。

菊川末吉、隈田研吾、魚住一海、橋爪末喜、村川光雄、
酒井虎喜、大山唯義、末崎成次、清田甚佐久、本田勝次、
湯村長八、小田政次、牧野　正、佐々竹之、田中為佐次。

これをもって人事面の配置も出来て、掘削事業達成への布陣が確立した。ここで高野事務局長は『温泉掘削と商工会』と題する、ガリ版刷りのリーフレットを全会員に配布して協力を呼びかけた。

リーフレットには、

――二十六年三月の隈府二十日会で、会長の温泉掘削の決意発表があって、

私は佐敷町を訪ねて「佐敷町に於ける温泉掘削事業報告書」をまとめ、その中に掘削資金は一千万円だと明記して本事業は商工会のイニシアチブで遂行されると述べた。

特に添書に、兎角この種の事業に付き纏う権媒術策や不正行為が起り勝であるのでこれらの事を断固排除して、ガラス張りの運営によってひたすら町発展を念願して商工会が立ち上ったものだと述べてある。右掘削事業成功に対する気構えは充分出来上り、この上は有終の美の招来のため会員各位の理解ある協力あるのみとなった。

郷土開発の根源

掘削地点決定

菊池の近郊

♨郷土開発の根源

掘削地点決定

掘削事業のイニシアチブが町に移譲後の、二十六年十一月から二十七年二月の間に、町議会文化委員会は熊本大学松本博士と、鹿児島大学の露木博士を招聘して水質・温度・地形調査に当ってもらった事は「温泉掘削と町議会」で述べた通りであるが、泉源地選定の有力意見となったのは、主として鹿児島大学の露木博士の調査結果報告であった。

露木博士の電気電導測定機による水の電気抵抗調査結果に依ると、

「附近の地表に出ている水は温泉とは全く関係はない。しかし地形から考察すると、隈府地区一帯は熔岩層が二重になって広がっており、その下に仮に温

泉があるとすれば層状温泉だと断定出来るので、一ヶ所に温泉があれば他の近い地点にも温泉はあると確言出来る。掘るとすれば現在の第一号井附近から町営グラウンドに近い一帯であろう」……と。

湧泉後の今日からすると、露木博士の調査結果は成程と頷けることばかりである。露木博士は自信をもって調査の重要ポイントを指示され、この地域での不可欠条件である断層亀裂などの地下条件から考えて、山沿いが湧泉の絶対条件だと立証された博士の慧眼に敬意を払うものである。

掘削地点決定について『村川信彦記』から引用すると、

二十七年五月露木博士の専門的調査が始まった時、博士と遠慮のない意見交換をした。

私は、「温泉は杖立・栃木・人吉と川沿いに多く出ている。菊池でも川沿いを望んでいます。過去に旅行した川沿いの温泉郷の思い出から菊池川、迫間川流域の温泉宿を希っています」と申しました。

先生は、「温泉は川沿いだけに限らない。雲仙も霧島も山の上の温泉ではありませんか」とのお話で私の川沿い説は消えて了った。

この露木説は専門的な基礎調査からの所産であって深く頷けさせられるものであった。

この間醵金賛同者の拡大運動は勢い強くなされているのに、掘削地点の決定は未発表のままで、いろんな憶測は飛び交って不安定のまま過ぎていたが、会長は期する所があってのことか黙して語らずの身構えであった。

二十八年四月十九日

第一回特別委員会の席上で、会長から掘削地決定について事前協議なしの独断的な発表がなされ一同唖然として聞き入った。

掘削地点は東正観寺字守山一一二五（現第一号井）。

会長と土地提供者森山清喜氏とは昵懇の間柄で、掘削問題を話合ううちに森

山氏の土地提供の意が固まったものであろう。森山氏は掘削用地九十坪を、掘削不成功の時は返却すると云う条件での無償提供されたという事であって、森山氏の掘削熱も相当なものであった。この提供地は開拓新らしい梨畑で、梨の収穫は無に等しく、従って地価も低く余り目立たぬ場所で、現在の盛んな菊池温泉郷からみると想像もつかぬ位のさびしい土地であった。

出席の特別委員会会員は会長の独断だとも言える掘削地点発表を了として、ここに掘削地点は決定して一同喜び合った。

委員会終了後、一同揃って現地に集合して掘削地点を確認し、その場で会長は神の啓示に従うかの様な神妙な態度で守山一一二五の現在の菊池温泉第一号井現場に立ち、一同拍手の裡に白い棒を立て軽く合掌してその場を去る会長、それを取巻く委員各位の上気した雰囲気を今もって忘れることができない。

華やかさの中の不安

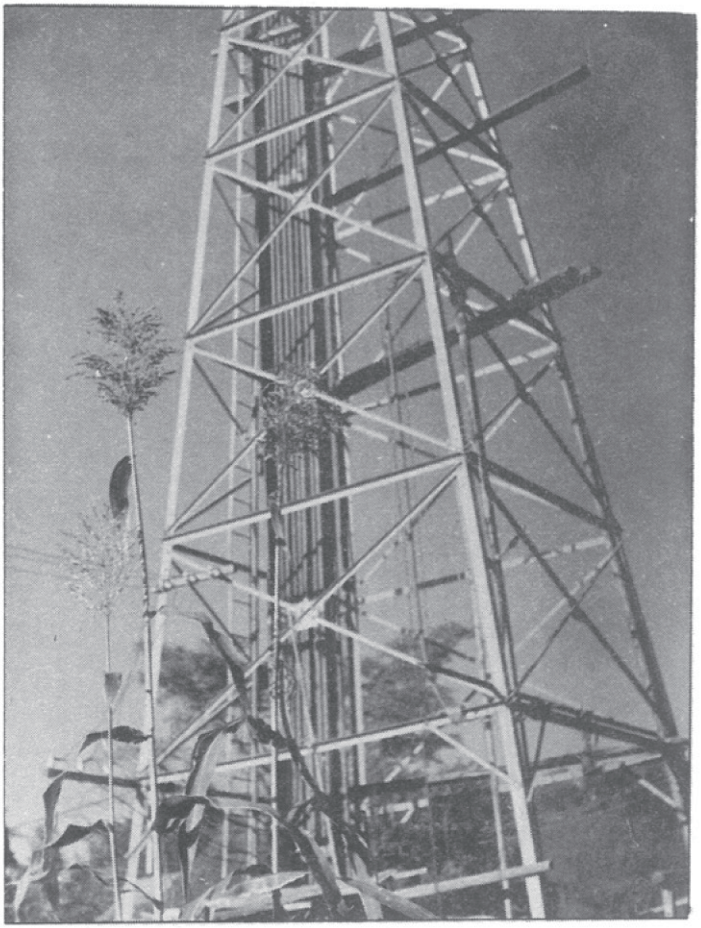
待望の起工式

華やかさの中の不安

待望の起工式

掘削資金の見通しがつき掘削地点も決定して、相良ボーリングとの掘削請負契約も結ばれ、そして県温泉掘削審議会の審議も異議なくパスして県知事の掘削許可の交付も受けた。日を経ずボーリング資材の搬入がなされて、日を要せず四十五尺の鉄櫓が建ち、三吋パイプが鉄櫓に立てかけられ、十馬力の巻揚機や五馬力の送水ポンプと想像以上の大規模の仕掛けの諸準備は終った。

物見高い地元の人々は次々と鉄櫓附近に近寄って鉄櫓を見上げて、ペチャクチャおしゃべりが始まる。電気工事も完了。必要な特殊粘土も櫓の傍にうず高く積立てられ掘削機運転開始万事ＯＫの姿勢で起工式を待つのみとなった。



45尺（約15メートル）の鉄櫓と三吋パイプ

二十九年六月二十六日

起工式の当日である。

起工式は午前十一時の開式であった。朝六時曇。七時～八時雨。九時から小雨。十時雨。十一時前から雨もやむ、という不安定な天候の中に開式されたとの記録が残っている。

雨と云えば熊本市の大雨による白川氾濫の二・二六大水害は、丁度昨年（昭和二十八年）の今日であって、雨とか水とかは温泉と何か関係があるかのと妙な気がしたのであった。

今日の起工式会場は第一会場が掘削現場で、第二会場は近くの隈府小学校講堂が用意された。

午前十一時の会場には知事代理、地方事務所長、隈府町長外の関係知名士、そして醵金者併せて二百六十八名の方々が、第一会場の用意されているテントの中で、降りこむ雨を避けるためテント内のコウモリという珍風景も見られた。

開会の十一時には掘削事業の成功を祈るかの様に雨はやんでくれた。

菊池神社、月見殿をバックにして高く聳える鉄櫓の前に設営された祭壇には数々のお供えがなされ、祭壇前に居並ぶ参会者等しく湧泉を念ずる気持に変りはないものであったであろう。

式は定められた式順で進行し、玉串奉奠は次の方々であった。

一、発起者代表　村川商工会長
二、知事代理　村田県事務所長
三、町長　隈田町長
四、温泉審議会会長　㈹伊藤県係長
五、県議代表　菊川県議
六、町村長会代表　松永村長
七、土木組合長　松田組合長
八、醵金者代表　有田商工会副会長

川瀬商工会理事長
藤田兵次相良ボーリング代表

九、掘削業者

予定の通り祭事は進行して、正午のサイレンに合せ会長の手で掘削機のスイッチが入れられ、轟音をたてて廻転が始まり用意の場所に参会者の見ている前で二十尺（約六メートル）ほど掘下げられた。

起工式参列者は強力な機械力を信頼するかの様な面持で、願望達成の雰囲気を醸し出した緊張のひとときであった。

儀式完了後小学校講堂に用意の第二会場に移って祝宴が開かれた。

一、開会の辞　有田副会長
二、経過報告　高野専務理事
三、代表者挨拶　村川会長
四、来賓祝辞
(1)　知事　(代)伊藤係長

(2) 町長　隈田町長
(3) 県会議員　菊川県議
(4) 地方事務所　村田所長
(5) 土木組合　松田組合長

五、閉会の辞　川瀬理事長

数々の祝辞の殆んどが、温泉湧出は確定的のものであるかの様な内容であって、最初からこの事業に関係して来た私には温かいお祝辞が却って心配の種であって、海のものとも山のものとも判断出来ぬ掘削事業が目出度く成功すれば幸いであるが、若し不成功に終ったらなど想像しただけでも冷汗を覚えたものであった。

来賓の県知事代理の伊藤係長との談笑の中で、若し掘削不成功の時はどうなるだろうと同じ感じを述べ合った事が思い出される。祝宴の盛上りの最中私は講堂ステージ裏の控室の片隅に一人佇ずみ、掘削不成功の時を想像して切角

の祝い酒も喉を通らぬ有様であった。

会長の『村川信彦記』の中に、有田副会長との間の会話の一節が出ている。

「会長はこれだけの方々の協力を得ての掘削事業がもし不成功に終った場合どの様になさいますか」との有田副会長の問いかけに私は次の様なお答をした。

「町や土木組合の助成金・寄付金はお返し出来ませんがその他多くの方方の醵金は半分にお負け願って残りは私の財産を処分してお返金する覚悟です」と申しますと、

之に対する有田副会長は

「あなたがその様な立派なお気持なら私が残り半分を引受けて全額を返済しましょう」との返事に私は心の中に新たな勇気と決意が湧き掘削事業への熱意が高まった。

と述べてある。

誰の気構も同じで専務の私も掘削不成功の時はと心に決めていたことは、かねて宮崎市にお住いの恩師から宮崎で高等学校教師の話があるが宮崎に来ないかとの事であったが、私は目下温泉掘削事業に関与しているのでその結果によってはお世話になりますと保留中であったので、宮崎市への逃避行も考えていたものであった。

三十年経た菊池温泉街の殷賑の今日、当時この様な裏話があった事などを本当の事として受取ってくれる方は少いだろう。

神の恵み「地獄の釜」

天恵の湧泉四十五度三分

神の恵み「地獄の釜」

天恵の湧泉四十五度三分

二十九年六月二十六日

菊池温泉掘削起工式のこの日から、地上四十五尺の鉄櫓に取付けられた掘削機は勢よく廻転を始め、用意の三吋パイプは次から次と地下に吸込まれ目的達成への躍動が始まった。

掘削現場の晴れ渡った初夏の空にガラン、ズシンと力強い掘削音が響き、行き交う人々は日増に数を増し、本格的ボーリング風景に驚異の眼を向け空高い鉄櫓に備え付けられた巻揚機を仰ぎ見る様子は、時ならぬ開発ブームの情景だと言えよう。

しかしながら、醵金予約者の中には依然として湧泉が信ぜられぬのか、現場見廻りに出かける私に向って〝現場ですか〟と会釈はしてもらえるものの、その裏には〝出もせぬ温泉掘りに熱中するのは馬鹿馬鹿しいではないか〟の蔭の声が聞えて来る様でたまらない気がしたものであった。

二百尺（約六十メートル）まで工事が進んだ時、ボーリング屋の若い従業員達から〝地盤が荒れていて掘り難い〟という声を聞いたのは起工以来早や何日目かの愚痴に前途の不安を感ぜられた。

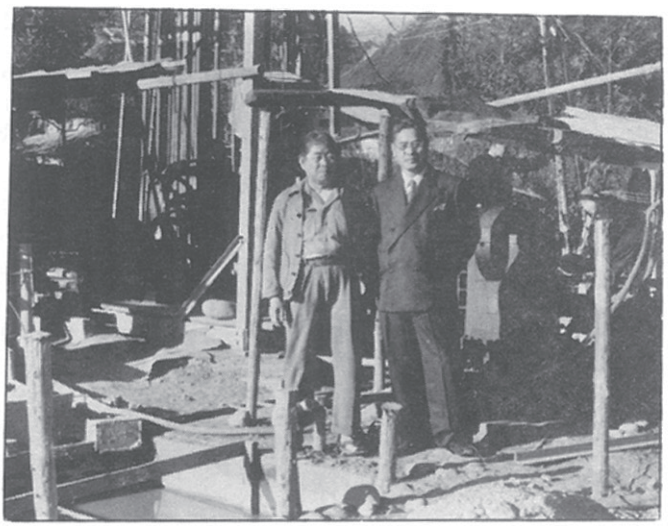
それでも掘削機は威勢良く回転して急ピッチの進捗振りの勢を感じた。

工事が三百尺（約九十メートル）近くに進んだ晴れた朝の事であった。ボーリング屋の藤田のおじいちゃんは私に、

「高野さん！　地下の様子に何だか感ずる様だ」

と話しかけた。

未経験者の私は踊る心と不安の気持が交叉して、何とも言えぬ妙な気持にか



現場を見廻る高野専務(右)と藤田施工主(左)

られた。

藤田さんと話合いの結果、測温の打合せをして、会長、理事長の同意を得て急いでその手配をした。

八月十日午前七時から第一回目の測温を行う事を決め、会長と私が測温に立会う事となって、井戸浚えが始まり掘削用粘土水が汲み上げられ、その粘土水が可成り遠方まで流れた異観にはびっくりした。

測温前夜の九日の夜は容易に

寝付かれぬ一夜で、十日の朝は約束の七時より一時間半も早く現場に到着して、寝て居たボーリング屋の従業員を叩き起こし、会長到着前に密かに測温器を降して見ることにした。

測温器を引揚げて、拝む気持で温度目盛を見ると、何と水銀は三十五度五分を指している。

その時の嬉しさは一入で、この菊池で三十五度の温水を初めて確認したのは〝俺だ〟という妙な誇りと嬉しさを感じたものであった。

高鳴る胸を押えて会長の来場を待った。約束の七時前に会長夫妻が見えて、用意の測温器はスルスルと降ろされた。測温器が揚って来るのを待つ会長の気持と、密かに三十五度五分を確かめている私の気持とは必ずしも同じではなかったが、待つ気持に違いはなかったであろう。

引揚げられた測温器の水銀は確かに三十五度五分を指している。（測温器や測温手順で多少の温度差が生じるのは通例）

八月十日

午前七時半第一回測温は目出度く終った。

三十五度五分を指す測温器を握りしめた会長の昂奮の眼差しと、震える手先、顔面高潮は漸時つづき、やゝあって天を仰いで、

「ワシには神さんが憑いていらっしゃる」

と聞き取れぬ位の低い喜びの声があった。

二十六年以来四ヶ年の悲願が実った喜びの会長は、感激の握手を私になさって、長い間の苦労に感じ入る二人だけの歓喜のシーンであった。

そこで、第一回測温の結果公表に当って微笑ましいハプニングがあった。

その事は会長の発案によって、

「第一回測温の結果公表を三十五度五分のものを三十二度と公表する」

というもので、その三度五分の温度差は次回測温の際、もし上昇差が少かった時に備えて隠し置くという魂胆であった。

私は有田副会長、川瀬理事長に会長の意向に従って三十二度と報告し、会長は隈田町長に対し「本当は三十五度五分だが、三十二度で公表してもらい度い」と申入れた事に対し、町長は会長の慮りを何故か取上げず、町役場前の掲示板には太文字で、地下三百尺（約九十メートル）で地下温度三十五度五分と公表された。会長は苦笑し、私は有田、川瀬さんへ急ぎ報告訂正するなど微笑ましい一席　もあった。

次で事務局では非公式の測温を行った。

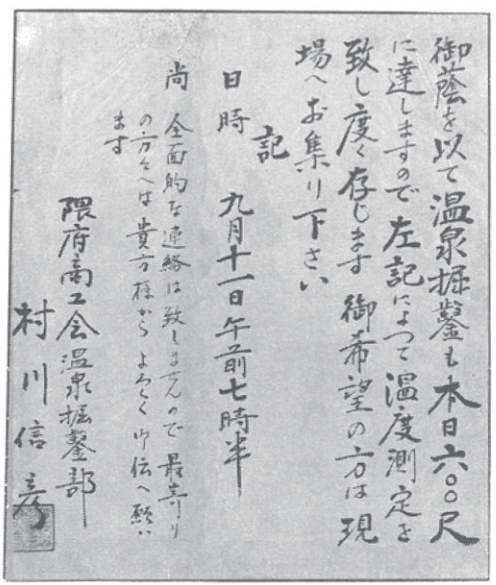
四百尺（約百二十メートル）三十七度

五百尺（約百五十メートル）礫層岩板で測温中止。

五百八十尺（約百七十五メートル）三十九度五分。

この様に掘削工事は好調の経過を辿っているにもかかわらず、何人かの醵金契約者の中から〝醵金かき集めの為の水増報告だ〟との声が耳に入って来る。

それではという事から、次の第二回測温は公開測温と決まって、温度六百尺の測温を公開測温とする事で次の回状を最寄りの醵金者に廻わした。


御蔭を以て温泉掘鑿も本日六〇〇尺に達しますので左記によつて温度測定を致し度く存します御希望の方は現場へお集り下さい

記

日時　九月十一日午前七時半

尚　全面的な連絡は致しませんので最寄りの方へは貴方様からよろしく申伝へ願います

限府南二会　温泉掘鑿部

村川信夫

九月十一日

参加者三十四名の面前で第二回測温がなされその結果は次の通りであった。

測温日　九月十一日午前八時。（晴天）

外気温　二十五度。

測温度　六百尺（約百八十メートル）で四十度七分。

一週間前の五百八十尺で三十九度五分であって、深度二十尺（約六メートル）の相違で四十度オーバーか否かがこの日の論点であって「越す」「越さぬ」の二説に分れて微笑ましい対立となり、果ては和気アイアイの賭けごとが始まるなど時ならぬ前景気のざわめきの中で測温が行われた。

参会者注視の中で、引揚げられた測温器の水銀は四十度七分を示していて、甲乙二派の参会者の等しい歓声となって会場はどよめきの渦となった。

そしてその場で喜びの即席野外祝宴が開かれ、さきの賭ごとも忘れ去って喜び一杯の祝宴となり、お互が喜びの杯を交し合う秋晴れの良き日となった。

泉源温度の見透しが出来て周囲の関心は掘削深度に及び、公開測温の三日後に第五回常任委員会が開かれて掘削限度に就いての協議がなされた。

意見を要約すると

A説　公共的見地から或程度深度を深めてそのデータを探知することが商工会の掘削使命である。（使命説）

B説　資金の有効行使の見地から理想温度を四十四度―四十五度に止める可きである。（理想説）

C説　温度だけでなく湯量と勘案して深度決定をすべきである。（合理説）

D説　素人判断でなく露木博士のご意見に従う可きである。（慎重説）

何れの説も頷づける説であるが、協議の結果D説に落付いて露木博士のご来場を仰ぐ事に決着した。

九月十八日

深度六百八十尺で第二回公開測温を行い、その測温結果は四十一度五分であ

った。

ここら附近からの岩盤は結晶片岩で、硬さを増し硫黄らしい黄色の附着物のある岩盤があがって来てこの事が川瀬委員長の目に止まり、この事を重視して、第五回常任委員会でも合議事項でもある事なので、急ぎ露木先生の指導を仰ぐ事となった。

十月十一日

私は鹿児島大学理学部地質教室に博士を訪ねて懇談の結果、博士は阿久根温泉調査スケジュールを変更して下さって十二日の来隈となった。

十月十二日

集会の委員を前にして博士は、

「硫黄らしいものの附着した岩盤は温泉と直接の関連性はうすい。宮崎に温泉が出ないのは地下地盤が結晶片岩に覆われているからである。此処の結晶片

岩の在り方とは些か違うものと思うが、結晶片岩が八百尺上下に存在することに無関心であって良いと云うことにはならない」

と話され、ついで博士は、

(1) 予想地盤から推測して四十三度位が限度かも知れない。

(2) 今回の掘削事業は商工会の公共的な試掘であると考えて、無駄だとしても更に百尺（約三十メートル）程度の掘り下げを続けるべきだ。

との貴重な見解が述べられた。

同席の委員間では、地下温度四十三度では汲みあげ温度は四十一度前後になって了う。夏季は兎も角、寒い冬場はお隣りの山鹿温泉に似たぬるい温泉になってはと暗い顔付でお説を拝聴し、博士のご意見のあと百尺掘下げの勧告に従うことには一同同意した。

この間にあっても掘削機は硬い岩盤に向って掘削を続けている。

それからの何日かは菊池温泉掘削の最大のピンチであって、会長始め関係者

の勇気ある心の闘を必要としたものであった。

十月十五日

第四回公開測温が行われ、

深度　七百四十尺（約二百二十メートル）

地下温　四十三度五分。

この深度での掘削工事は容易でなく、難工事の連続で捗々しい進行はむづかしく、掘削従業員は勿論のこと吾々も気を揉むことのばかりであった。

そして三日後の昼下り、掘削現場では岩盤に大型亀裂現象に逢着して、ドラム缶十五本程度の逸水が始まり、慌てて補充の粘土水を地上から注入するなどで漸く逸水が止るという大騒ぎが起った。

ところが、この亀裂こそが待望の地下現象で、世間で謂う「**地獄の釜**」で汲めども尽きぬ神の恵与の泉源であったのである。

幸いなる哉、天恵の「地獄の釜の蓋」が開かれ、菊池の里に温泉湧出が決定

的のものとなった。

素人の多くは温泉の泉源の在り方を、

・地下にはどこでも小川の様に温泉が流れていると思っている。

・温水がたっぷり溜って地下に池をなしている。

などおとぎばなし的想像をしている者がかなり居るようだが、大方の温泉は地熱で温められた地下温水が、亀裂や断層に沿って溜り、そこへボーリングの先端が突き当って湧泉となるものである。

十月二十一日

第五回測温で、

深度　七百八十尺。（約三百三十五メートル）

地下温　四十五度三分。

の結果が出て、露木博士の「あと百尺の掘り下げ」のご指導が、見事に適中し、地獄の釜との出会いとなり、神に願った四十五度の温泉源を突き止め、関係者

の喜びは計り知れないものであった。

十月二十八日

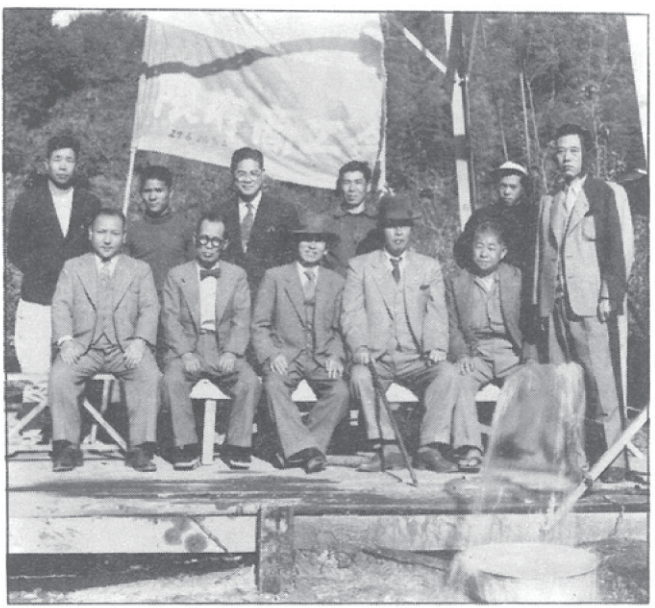
深度七百九十尺で掘削作業を打ち切って仕上げ掘りに移り、井戸の粘土水の汲み上げや、土砂の掻き揚げなどの仕上作業の全部を終った時の最終深度は八百十三尺（約二百四十六メートル）で、ここで掘削機は静かに止った。

菊池温泉の自然湧出は地下二十尺止りで、一応の対策として三馬力のタービンを準備してこの日の作業を終了した。

十月三十日

この日は湧泉成功の記念すべき日である。

天地創造以来日の光を見なかった温湯（じとゆ）が、ゆらぐ湯気を漂よわせて、浚え残しの泥で色どられた天然温水がタービンの吸力に押されて、四十三度の温度でゴクゴクとかなりの湯量で湧出し、待望の温泉となって立会いの関係者を狂喜させ、子供のように湧き出る温泉を掌に受け止めたり、ほとばしる温水を握り



29・10・30　　初の湧泉

植田理事
（工員）
藤田請負者
村川会長
（工員）
隈田町長
高野専務
川瀬理事長
（工員）
有田副会長
宮本電気社長

しめたりする人の姿もみられた。あふれる温水をみつめる村川、有田、川瀬の首脳陣や、来場の隈田町長の眼には実りの涙がキラキラと光っていた。

この喜びは又市民一同の喜びでもあった。

温泉湧出のニュースは全町を包み、日を追って多くの住民が現場に押かけ、巻揚機に触ったり、ある人はドラム缶を持込んで温水をリヤカーで運んだり、会長、理事長はドラム缶の急造風呂桶を据え、裸で語り合う風景は微笑(ほほえみ)なしには見られぬものであった。又、これまでにいろいろ配慮を受けた病床の菊川県会議員に、先づ以ってという気持でドラム缶で温水が送り届けられるなど忘れ得ぬ喜びの表れであった。

兎も角、街の話題は温泉又温泉で、新聞報道も温泉誕生を祝福してのビッグニュースとなって世間を賑わせた。

このように温泉掘削が唯の一回で成功し、しかも温質が極めて良好で、四十

五度の高温で相当の湯量の掘削成功は余り事例のない事で、神の恩恵でなくて何であろうかと、心から感激し合ったものであった。

さてここにもう一つ、ただ自然現象といいきれぬ幸運があった。

それは菊池温泉は自噴能力では地下二十尺（約六メートル）迄しかあがらないため、地上に湯をくみ上げるには、どうしてもコンプレッサー（空気圧搾機）の力を借るほかに方法がないという、宿命的な条件があったのだが、これが却って幸を呼ぶ結果になったのである。

（このことについては、公表されていないので、今日でも本当の事を理解している者はそんなに沢山いるとは思えない）

即ち地上まで上がる自然湧出であれば、地下八百十三尺の地下温度四十五度三分は、自然湧出の間に約二度前後、湯の温度が低下してしまうのであるが、ここでコンプレッサーの力を借りると、圧搾機によって圧搾された空気は、地下三百尺(約九十メートル)のパイプを伝わって吹き込まれる。そして圧搾の途

中でパイプの内の空気は百度近い熱風となって、温水を温めながら地上に吹き上げられるのである。

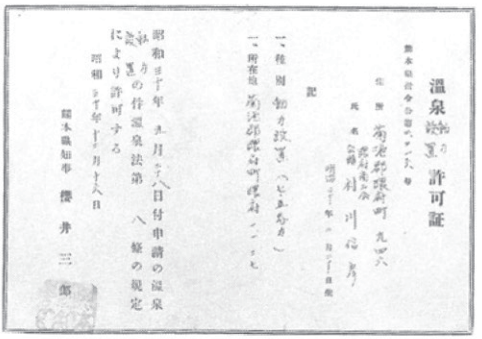
その結果、自然湧出の場合の二度前後の温度低下は美事に防止されて、地下四十五度三分の温水はそのまゝ四十五度前後の理想的な出湯（いでゆ）となって地上にあふれるという予期しなかった恵まれた現象をあたえられたのである。

最初予備知識のない吾々は、一回目には三馬力のタービンを使用して揚水したのだったが、湯量も温度も物足らぬもので、関係者も余り晴々しい思いはしなかった。

この事に対処するために、温泉法第八条の規定に基いて、十月十五日付で県衛生部に対して「五馬力の温泉動力装置許可申請書」を提出し、十二月二十四日付の知事名の許可書が交付され一応の決着がついた。

この結果に就いても、関係者間では満足が得られず、更に前進して翌三十年五

月二十八日付で、「七馬力半の温泉動力装置許可申請書」を県衛生部に申請し、同年十二月十六日付の許可書が交付され、以来願望の地上温度四十五度の優秀な菊池温泉となっている。



温泉動力装置許可証

記

一、種別　動力設置（七馬力）

昭和三十年　月　日付申請の温泉動力装置の件温泉法第　条の規定により許可する

昭和三十年　月　日

熊本県知事　櫻井三郎

以来菊池温泉では、コンプレッサー装置にからまる余慶を充分理解されぬまま温泉利用を続けている。

それでも、各戸のコンプレッサーは勢いよく運転を続けている。

残しておきたい協調の記録

各部それぞれの活躍

♨ 残しておきたい協調の記録

各部それぞれの活躍

天恵の湧泉四十五度三分を恵まれた菊池温泉掘削物語に欠かしてならぬ事は、会長始め商工会幹部役員の熱意に呼応して活躍の商工会員その他の協力振りを残されている記録に基いて記述することである。

以下、順を追って各部の記録を述べると次の通りである。

昭和二十九年六月八日

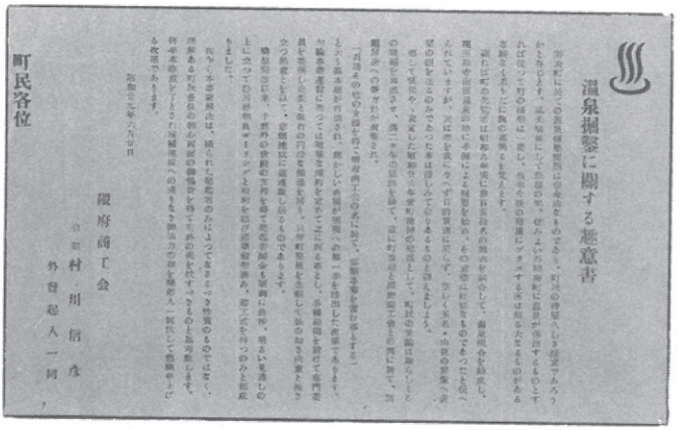
第三回常任委員会が開かれ、規約に従って部門別委員が次の通り委嘱された。

(1) 総務部

木村、岡山、村田、高野(喜)、坂井、植田。

(2) 工事部
田崎、村田、金子、伊藤、福村、上村。
(3) 資材部
福村、板井、河崎、植田、木村。
(4) 資金部
伊藤、上村、高野(喜)、田崎。
(5) 会計部
井上、中村。
(6) 監査部
河崎、緒方。
事務局長は全般に渉る庶務。

各部の活躍



温泉掘鑿に關する趣意書

町民各位

隈府商工會
會長　村田信彦
外發起人一同

(1) 総務部日記

六月九日

会長、事務局長、植田、村田の四氏は県衛生部を訪ねて、温泉掘削許可交付の件について陳情。

六月二十二日

二十六日の起工式案内状を関係者の手許に届け、『温泉掘削に関する趣意書』を町民各戸に配布して、掘削事業の趣旨徹底と協力要望のキャンペーンとした。

事務局長県衛生部、熊本大学、産交、熊日、ＮＨＫ等を歴訪して起工式列席の案内をした。

六月二十三日
起工式を迎えるための各手配。
各委員は未経験の事なので手落のない様に入念な打合せをした。
六月二十六日
起工式。各係員の蔭の働きで立派な起工式が行われた。

(1) 工事部の日記
五月十八日
相良ボーリングと掘削契約成立。
六月八日
四十五尺の鉄櫓組立完了。行交う人々天を仰ぎ見る。
六月二十六日
起工式当日。

式順に従い正午のサイレンで会長の手でスイッチが入れられ、掘削機の鳴動がガラン、ズシンと響いた。

七月十日

第一回測温が会長と専務の私とで行われ、その結果は予期せぬ深度三百尺、地下温度は三十五度五分であった。

この結果は町内を沸きかえらせた。

九月十一日

醵金者の納得を得るため公開測温で集まった立会人三十四名。測温結果は深度六百尺で地下温度四十度七分。

歓声の中で急造の野宴が開かれるほどの喜び様であった。

九月十八日

深度六百八十尺で地下温四十一度五分。

掘り上げた岩盤に硫黄状の附着物を理事長は重視して、露木博士に調査を願

う事になり私が鹿児島大学に伺う事となった。

十月十二日

露木博士の所見は、硫黄状附着物は心配いらぬが今度の掘削はいわば試掘であり、その建前から更に百尺程度掘削を進めるべきだ。との指導に従う事になった。

十月十五日

深度七百四十尺地下温四十三度五分。

十月二十一日

深度七百八十尺地下温四十五度二分。

十月二十九日

深度八百十三尺地下温四十五度三分で掘削完了となった。

十月三十日

井戸泥抜きを了え自然湧出を待ったが、地下二十尺で停った。急ぎ三馬力のタ

ービンを据え付け吸上げ地上温度四十三度

地下温四十五度三分は二度程の減温で四十三度程であった。

十二月二十四日

温泉動力設置許可願に対し、知事名で出力五馬力の動力設置の許可があった。

（更に三十年十二月十六日出力七、五馬力の動力設置の許可があっている。）

(3) 資材部日記

六月十三日

河崎委員の斡旋で熊本市松本商会から六吋パイプを購入。

六月十五日

資材部委員福村、板井、植田、河崎、木村委員の外に私も加わって、三吋パイプ購入商社を検討の結果次の商社と決まった。

福岡市古小路三三　松下次郎商店。

六月十七日

前記松下商店と三吋パイプ購入契約のため、板井、植田委員と私の三名で松下商店を博多に訪ね購入契約が成立し、帰途鹿本郡熊入町菊池屋に立寄り掘削事業に関する意見を聞いた。

(4) 資金部日記

三年半に近い経緯を経て、二十九年一月十七日の隈田町長、村川会長談合で「掘削は商工会、町は二百万円の助成金に決着し、その日の朝商工会首脳の間で掘削決定がなされ、その日からの会長の奔走で四月末には四百二十万円の醵金予約者が出来た。

四月十四日

本日の理事会で掘削資金目標壱千万円に就いて、

会長募集済　四百二十万円。

町助成金　　二百万円。

あと三百八十万円を商工会員、その他に求める事に全面協力の賛同があった。

六月二十二日

町助成金交付の件決定。

九月六日

土木組合副組合長魚住一海県議の斡旋で土木組合から寄付金百万円が決定。

(5)　会計部日記

掘削関係の金銭出納は独立会計として、伝標の一枚毎に村川、有田、川瀬、竹田(役場収入役)と伝票発行者高野の捺印なしには一銭たりとも動かせず、帳簿は事務局長、現金は理事長の管理となっている。(現にその一枚一枚の伝票が保存されていて見る度こんなにまでにと思われる)

入金傳票

No. 1

27年7月11日

勘定科目	摘要		金額
諸口	立院所	村田組長	5,000.—
〃	〃	廣田組吉	5,000.—
〃	〃	廣田組雄	5,000.—
〃	〃	主計室太	5,000.—
〃	〃	高木上等	5,000.—
〃	〃	上村能彦	1,000.—
〃	〃	針 貞彦	10.—
〃	〃	小松 達	10.—
		合計	16,020.—

出金傳票

No.

27年7月7日

勘定科目	摘要	金額
旅費	熱海出張 中間支拂分	¥1,000.—
	相見ヨリ 5名分	
	合計	¥1,000.—

七月五日

醵金の¼収納が開始された。

委嘱の各区醵金収納責任者五十二名によって収納作業が始まったものの、責任者の苦労は大変なもので、単なる金銭収納作業ではなかった。

従って収納担当の理事長、専務理事の多忙さは大したものであった。

掘削事業の決算承認は、三十年前監査を得て総会で済んでいる事であるので省略するが、相良ボーリングに支払った掘削料金は総額で四百二十万円であった事は確と今でも覚えている。

会長が四月末までに募集した金額が丁度これと同額であった事を妙に感じた。

ちなみに醵金者の最終の名簿は次表の通りである。

醵金者名簿

番号	区名	氏名	金額
1	正院丁	村川　信彦	二〇〇、〇〇〇円
2	〃	広田　熊喜	一〇、〇〇〇円
3	〃	広田　熊雄	一二、五〇〇円
4	〃	主計　富太	一二、五〇〇円
5	〃	岩本　トキ	二〇、〇〇〇円
6	〃	上村　能度	一〇、〇〇〇円
7	〃	吉井　次男	一〇、〇〇〇円
8	〃	針　藤蔵	一五、〇〇〇円
9	〃	小代　連	二〇、〇〇〇円

10	正院丁	田中　斉	一〇、〇〇〇円
11	切　明	橋爪　未喜	一〇〇、〇〇〇円
12	〃	津留　武士	一〇〇、〇〇〇円
13	〃	植田　生男	六二、五〇〇円
14	〃	福村　登	七五、〇〇〇円
15	〃	中川　静男	五〇、〇〇〇円
16	〃	安永　泰	二〇、〇〇〇円
17	〃	長谷部鶴彦	五二、五〇〇円
18	〃	酒井　武敏	一七、五〇〇円
19	〃	守田　寛	一七、五〇〇円
20	〃	江頭　勇	二五、〇〇〇円
21	〃	桜井　時教	二〇、〇〇〇円
22	〃	荒本　徳蔵	一〇、〇〇〇円

番号	区名	氏名	金額
23	東正	佐藤　隆	二〇、〇〇〇円
24	〃	城　忠良	一〇、〇〇〇円
25	〃	立山　憲心	二〇、〇〇〇円
26	〃	高木今朝美	一〇、〇〇〇円
27	〃	米島　団蔵	一〇、〇〇〇円
28	〃	東　桂吾	一〇、〇〇〇円
29	〃	大津　直	一〇、〇〇〇円
30	〃	内田　耕夫	一〇、〇〇〇円
31	〃	二階堂慈嗣	一〇、〇〇〇円
32	〃	宮本　辰生	一二、五〇〇円
33	〃	菊川　留男	一〇、〇〇〇円
34	〃	松野　斉	一〇、〇〇〇円

47	〃	田尻　敬之	三五、〇〇〇円
46	〃	宮本　増雄	二〇、〇〇〇円
45	〃	川口陸奥男	三五、〇〇〇円
44	〃	横田　六郎	一〇、〇〇〇円
43	〃	本田　勝次	一一五、〇〇〇円
42	栄町	川瀬　又勝	二〇〇、〇〇〇円
41	〃	田中　秀穂	一〇、〇〇〇円
40	〃	渡辺　利治	一〇、〇〇〇円
39	〃	田島　実	一〇、〇〇〇円
38	〃	山下　実	一〇、〇〇〇円
37	〃	川口　若松	一〇、〇〇〇円
36	〃	岩根　重雄	五、〇〇〇円
35	東正	岩根　豊喜	一〇、〇〇〇円

番号	区名	氏名	金額
48	栄町	小池　忠一	一七、五〇〇円
49	〃	河原八千代	一〇、〇〇〇円
50	〃	野中　春子	一七、五〇〇円
51	〃	斉藤　実	二〇、〇〇〇円
52	〃	原口　哲男	一七、五〇〇円
53	〃	迫　秋俊	一五、〇〇〇円
54	立町	隈田　研吾	二〇〇、〇〇〇円
55	〃	金子　辰喜	四〇、〇〇〇円
56	〃	牧野　正	五〇、〇〇〇円
57	〃	田中為佐次	三〇、〇〇〇円
58	〃	脇坂　由雪	一〇、〇〇〇円
59	〃	合志　乙平	一〇、〇〇〇円

60	立町	奥村賢吉	一〇、〇〇〇円
61	〃	田中武雄	一〇、〇〇〇円
62	〃	本田嘉一郎	一〇、〇〇〇円
63	〃	小林種次郎	一〇、〇〇〇円
64	〃	上村耕作	五、〇〇〇円
65	〃	田崎正喜	二五、〇〇〇円
66	〃	中原明	一〇、〇〇〇円
67	〃	松本竹男	二〇、〇〇〇円
68	〃	岡山喜八	二〇、〇〇〇円
69	中町	有田義行	二〇〇、〇〇〇円
70	〃	高田充雄	三五、〇〇〇円
71	〃	井口良吉	三五、〇〇〇円
72	〃	右田忠吉	三五、〇〇〇円

番号	区名	氏名	金額
73	中町	藤本与一郎	一七、五〇〇円
74	〃	大里　吉足	一七、五〇〇円
75	〃	小池　誠一	九、〇〇〇円
76	〃	原田　敬伍	三、七五〇円
77	上町	佐々　竹之	一六二、五〇〇円
78	〃	緒方　勲	三七、五〇〇円
79	〃	高宗　保	四〇、〇〇〇円
80	〃	森本　時雄	三七、五〇〇円
81	〃	木村　大助	一〇、〇〇〇円
82	〃	有田　茂夫	四五、〇〇〇円
83	〃	村上　忠幸	二七、五〇〇円
84	〃	田代　義雄	三〇、〇〇〇円

85	上町	金光　直人	二〇、〇〇〇円
86	〃	高木　公久	二〇、〇〇〇円
87	〃	角田　清秀	一〇、〇〇〇円
88	〃	藤本　俊夫	一七、五〇〇円
89	〃	渡辺　清喜	一五、〇〇〇円
90	〃	渡辺　悦亀	一七、五〇〇円
91	〃	中川　春雄	一〇、〇〇〇円
92	〃	川上　勇記	一七、五〇〇円
93	〃	菊川　秀雄	一七、五〇〇円
94	〃	松本　新吉	一〇、〇〇〇円
95	〃	杉村　俊英	五、〇〇〇円
96	〃	溝尻　健蔵	一〇、〇〇〇円
97	西正	田崎伊三喜	一〇〇、〇〇〇円

番号	区名	氏名	金額
98	西正	村田　浩介	二〇、〇〇〇円
99	〃	松本　文男	二〇、〇〇〇円
100	〃	富田　弘	二〇、〇〇〇円
101	〃	土田　一雄	一〇、〇〇〇円
102	〃	井口　忠友	一〇、〇〇〇円
103	〃	小田原康雄	七、五〇〇円
104	〃	野田辰次郎	七、五〇〇円
105	〃	伊藤喜三郎	七、五〇〇円
106	横町	村川　光雄	二〇〇、〇〇〇円
107	〃	清田甚佐久	二三〇、〇〇〇円
108	〃	隈部　健一	六二、五〇〇円
109	〃	片田　富造	二五、〇〇〇円

110	横町	湯村長八	八七、五〇〇円
111	〃	岡山二郎	二〇、〇〇〇円
112	〃	大橋義雄	三五、〇〇〇円
113	〃	有働松蔵	二二、五〇〇円
114	〃	水上茂弘	二五、〇〇〇円
115	〃	古賀一夫	三五、〇〇〇円
116	〃	岡山浩子	三五、〇〇〇円
117	〃	黒肥地三好	二五、〇〇〇円
118	〃	古山久喜	三〇、〇〇〇円
119	〃	奥村シメ	一七、五〇〇円
120	〃	岡本勉	一五、〇〇〇円
121	〃	大場重雄	三五、〇〇〇円
122	〃	緒方正夫	一二、五〇〇円

番号	区名	氏名	金額
123	横町	高野　次男	一〇、〇〇〇円
124	〃	足視　弘記	一七、五〇〇円
125	〃	鳥越　貞利	三七、五〇〇円
126	下町	小池きくえ	六〇、〇〇〇円
127	〃	高野　喜一	二〇、〇〇〇円
128	〃	河崎　郁郎	二五、〇〇〇円
129	〃	白石信一郎	一二、五〇〇円
130	〃	荻尾　真幸	一二、五〇〇円
131	〃	岡山　豊	一〇、〇〇〇円
132	〃	紺田　幸吉	一二、五〇〇円
133	〃	信岡　徳	二〇、〇〇〇円
134	〃	相良　守庸	一〇、〇〇〇円

135	下町	古賀　昇	二〇、〇〇〇円
136	〃	大塚　長一	一〇、〇〇〇円
137	〃	荒木　正憲	二〇、〇〇〇円
138	迎町	伊藤　勘次	三五、〇〇〇円
139	〃	板井　義秋	四七、五〇〇円
140	〃	東　博文	一五、〇〇〇円
141	〃	中原　敬之	三五、〇〇〇円
142	〃	荒木　真吉	三二、五〇〇円
143	〃	上村　守一	一〇、〇〇〇円
144	〃	香川　セツ	四〇、〇〇〇円
145	〃	東　英八郎	八、七五〇円
146	〃	河崎　栄造	八、七五〇円
147	〃	坂本　一男	一二、五〇〇円

番号	区名	氏名	金額
148	出端	中村　潔	一二〇、〇〇〇円
149	〃	上村　仁吉	一〇〇、〇〇〇円
150	〃	横手　まき	三〇、〇〇〇円
151	〃	野口　貞	三五、〇〇〇円
152	〃	村上　シゲ	一〇〇、〇〇〇円
153	〃	末崎　成次	四〇、〇〇〇円
154	〃	富田　喜作	二〇、〇〇〇円
155	〃	奥山　秀一	二二、五〇〇円
156	〃	宮本松次郎	一五、〇〇〇円
157	〃	島　利信	一〇、〇〇〇円
158	〃	奥村　一二	一〇、〇〇〇円
159	〃	田上　秀八	一〇、〇〇〇円

160	出端	大渕　学	一五、〇〇〇円
161	〃	洞田貫政人	一〇、〇〇〇円
162	〃	中村　繁	一二、五〇〇円
163	〃	石渕伊代子	一〇、〇〇〇円
164	〃	亀田　隆一	五、〇〇〇円
165	〃	北里　為次	一〇、〇〇〇円
166	〃	倉原　良文	二、五〇〇円
167	〃	上田　明	一〇、〇〇〇円
168	〃	中島ミツル	一〇、〇〇〇円
169	〃	堀田　政人	一〇、〇〇〇円
170	〃	坂田　キク	一〇、〇〇〇円
171	〃	橋本美智雄	一〇、〇〇〇円
172	〃	酒井　虎喜	三〇、〇〇〇円

番号	区名	氏名	金額
173	出端	魚住　一海	五〇、〇〇〇円
174	〃	松田　正光	五、〇〇〇円
175	北原	本田　勇	三六、二五〇円
176	〃	益崎　正男	二五、〇〇〇円
177	〃	津村　次郎	一五、〇〇〇円
178	〃	今坂　道人	一〇、〇〇〇円
179	〃	管　清蔵	七、五〇〇円
180	立石	大山　唯義	一〇〇、〇〇〇円
181	〃	井上　烈夫	八七、五〇〇円
182	〃	堀田　清人	五〇、〇〇〇円
183	〃	上野　千秋	五〇、〇〇〇円
184	〃	中村　中	五〇、〇〇〇円

185	立石	柿塚参次郎	一〇、〇〇〇円
186	〃	堤　博	二五、〇〇〇円
187	〃	荒木　文男	五、〇〇〇円
188	その他	小林　家信	五〇、〇〇〇円
189	〃	松永　政男	二〇、〇〇〇円
190	〃	城　逸次	四〇、〇〇〇円

以上一九〇名

以上、総務、工事、資材、資金、会計の懸命の活躍の模様を紹介したが、何れの部にも属しない事項を拾って見ると次の様になっていてその真剣さがうかがえる。

二十九年五月十二日

第一回常任委員会開催。

出席者は会長、副会長、理事長、専務の外、福村、緒方、高野(喜)、田崎、板井、植田、中村、金子、岡山、村田、河崎、上村の委員合せて十六名で、

(1) 常任委員長に川瀬理事長を互選。

(2) 事務局長は掘削業者に佐敷町の掘削業者相良ボーリングを推薦。

(他の業者を検討してはの発言があった)

五月十三日

植田、上村、田崎、板井委員に事務局長同行して、事務局長推薦の相良ボーリ

ング以外の業者調査のため熊入町の筑後屋と、山鹿市の竹の内の両旅館を訪ねた。

竹の内旅館主人は相良ボーリングの掘削技能や機械力の性能を誉めていた。

五月十四日

植田委員に私が同行して博多市に出向いての調査の結果は、目当にしていた大成ボーリングは既に破産、他の群小業者は問題にならぬ程微力であった。

相良ボーリング親方の藤田氏から、親会社「日本探鉱削泉会社」と契約をするとなれば、三、四ヶ月後になるという事で、佐敷・山鹿で評判の良かった相良ボーリングの藤田氏と契約することに決し、

(1) 深度は千五百尺以内。

(2) 掘削料金は深度に応じて決定する。

などを話合った。

五月十六日
第二回常任委員会で相良ボーリング藤田氏と掘削契約の事を了承した。
五月十八日
相良ボーリング藤田氏と正式契約完了。
六月九日
隈府で開催の熊本県温泉審議会で掘削許可決定の内報があって、六月二十二日審議会からの正式掘削許可の交付があった。
一同安堵した。
七月四日
特別委員会総会。
九月十三日
第五回常任委員会で掘削の限度、諸施設について話合う。
十月二十七日

掘削目的達成が得られて、続く諸問題解決のための七つの小委員会が設置され、諸事促進は筆頭委員が当ることとなった。

各委員は次の通りである。

(1) 大衆浴場仮設委員会。
植田、河崎、村田、村川(光)。

(2) 温泉郷構成委員会。
川瀬、福村、坂井、木村、岡山、佐々。

(3) 事業移行委員会。
有田、井上、中村。

(4) 醵金・寄附金対策委員会。
村川、有田、川瀬、伊藤、上村、高野(喜)、田崎、緒方。

(5) 決算委員会。
有田、川瀬、高野(徳)。

十一月三日

醵金者大会は隈府幼楽園講堂で開催。本年一月以降十月三十日湧泉成功の実情の報告があって、今後の終末事項に就て充分な意見交換がなされた。

十一月二十九日

特別委員会総会で左記事項の打合せ。

(1) 温泉郷構成……地主（十三戸）と交渉。
(2) 仮設浴場建設……土木事務所の許可。
(3) 動力装置許可……県衛生部。
(4) 公衆浴場許可……保健所。
(5) 湯質分析……県衛生研究所。

以上部門別小委員会によって関係事項は順調に進渉した。

時には形式と実動が伴わぬ事があって、その時とその事実の流れに従って事が運ばれて見事な成果となった。

菊池観光の華

殷賑の菊池温泉誕生

菊池の宿

菊池観光の華

殷賑の菊池温泉誕生

二十九年

六月二十六日

待望の起工式と掘削機始動。

八月十日

第一回目の地下温測定が会長と私の手によってなされ、地下温は予想を越える三十五度五分であった。

湧泉の悲願が叶い関係者は勿論、町民からの歓喜の声で街中はどよめいた。

急ぎ、特別委員会内に常任委員会（委員長川瀬理事長）を構成して、以後の

諸問題に就いて頻繁に会合を開いて万全の措置をとることとなった。

その間、商工会首脳部の心労は大抵ではなかった。

初期の難工事に相良ボーリング屋と共々その対策に苦慮し、時には意外な非難中傷が聞かされ、これに打克つための方策に頭を悩ますなど並大抵ではなかった。

事成就の今日から見れば信じられない苦労である。

六月二十日

町民各位宛に

『温泉掘削に関する趣意書』

が配布された。

趣意書には「当局その他の支援を得て、隈府商工会の名に於て温泉掘削事業を営む事とする」と云う基本線に就いて述べ、事業遂行に当っては明確な規約を定めてこれに則って事を遂行すると約束して、理解ある町民各位の物心両面

の協賛を受けて有終の美を得たいと望んでである。

尚その約款には、

「醵出金は温泉湧出後の事業体への出資金として、その権利を認める」と約束されているだけで、浴場建設とか旅館経営などには、一切触れていなかった。

九月になって地下温度は四十度を越えた。

願望の湧泉が確定的となって、資金確保の目処と、掘削進行の現状から見て幸にも資金の余剰の目算が考えられ、その余剰資金の使途について様々な意見が行き交った。

・温泉街はどの様に。
・金が余ったら第二号井を。
・温泉旅館建館は。

など諸説紛々街の話題の中心となった。

十月十三日

緊急問題解決のため、左記商工会首脳の方々に集って頂いて話し合いがなされた。

出席者は、会長、副会長、理事長、専務理事の外に、福村、植田、板井、伊藤、橋爪、河崎、村川(光)、酒井、富田の十三名。

打合事項は、街の声、各自の構想と慎重な意見交換があって、次の件に絞られた。

・温泉街構成とその用地確保。
・第二号井掘削。
・大衆浴場建設。

右、何れも結論にまでには至らなかった。

十一月十三日

温泉湧出後の第二回醵金者大会では、菊池温泉形成に関する重要会合でお互に熱意の籠る話し合いがなされた。

(1) 温泉街構成について、
この事には資金、地主の意向、将来の展望などいろんな条件が伴う事なので、この会合では結論は出なかった。

(2) 第二号井掘削は、
具体的な結論ではなく第二号井掘削には一同之を了承した。

(3) 温泉旅館建設について、
旅館建設には諸条件が伴うので、更に検討を加えることとし、取り敢えず仮設浴場の早期実現を図る。

(4) 商工会の公共性を活かす。
商工会の公共性を喪失せぬよう醵金者の利益を守るため「協同組合」「財団法人」「株式会社」などの法人化を図り、醵金者の立場を無視せぬように。

これら今後の採るべき路なので、会合の醵金者の悔のないよう入念に話し合

いが繰返されて、結論の有力資料となった。

その後、

大衆浴場構想から温泉旅館経営へと構想は飛躍したが、取り敢えず仮設浴場が開設されて全町民は喜びに充ち溢れた。

この頃から掘削事業関係者以外の一般業者の動きが出始め、その思惑と、商工会が描く温泉郷構想との噛合せの難かしさをいやと云う程味あわされた。

三十年

三月二十五日

第三回醵金者総会が開かれて、温泉旅館（後の株式会社隈府会館）設立の決定がなされて、その用地決定には川瀬委員長が当る事となった。

用地決定には委員長の大活躍があって、旅館用地から附近の道路用地を含めて、極めて協力的な交渉が地主との間で成立がなされた。

その交渉相手は森山清喜氏外十三地主であって、幾夜かの交渉が続けられた結果、道路は町道とする事で妥当な提供に応じ、旅館用地については極めて協力的条件で折衝が妥結されたものであった。

この用地問題に対する、森山氏外十三地主の温泉郷構成に寄せた協力の好意は、忘れられぬ協調として後世に申し送りたい事である。

三十年を経た今日、既に温泉郷開発の使命を果して模様替となった「株式会社隈府会館」は姿を消したが、会館に使用していた第一号井の温泉権は商工会が保有して商工会の地域

～在りし日の隈府会館～

開発のシンボルとして、大衆浴場「夢の湯」株式会社隈府温泉と名乗って現在も営業中である。初代社長村川信彦、二代社長川瀬又勝、三代社長高野徳次と続き、現社長福村三男と健全経営が続いている。

会長を始め、副会長外の側近者と二百名の醵金者の願望の賜である、出湯（いでゆ）がコンコンと湧く極めて好評の温泉となって菊池観光の殷賑の淵源となっている事は、商工会が残した公共事業の大成果だとして銘記して置きたい。

二十九年十月温泉湧出に成功し、一躍観光地として発展の足場を作り、その温泉の優秀さは四囲の景勝地、多くの史跡、名所と相俟って旅情を深めている。特に九州随一と云われる森林と清流を誇る菊池渓谷、菊池神社の神苑一帯を包む桜、そしてつつじの名勝菊池公園一帯、菊池家にまつわる史跡など歴史と詩情豊かな地に相応しい菊池温泉郷となった。

嗚呼、菊池温泉に幸多かれと祈るのみ。

♨ 何人かに限られた賞状

商工会に残したい感謝状

何人かに限られた賞状

商工会に残したい感謝状

温泉湧出後の晴々としたある朝、微笑を浮べた会長は私に向って、

〝仁俠清水次郎長の昔話になぞらえて見ると、私が次郎長、有田さんが大政、川瀬君が小政、君が森の石松で、その他優秀な子分衆に囲まれての温泉掘削だった〟と囁いた。

そう言えば、会長次郎長は一途な願望と神の啓示を信念として事に臨み、副会長大政は持前の温厚さで会長の心の支えとなり、理事長小政は常に冷静で方事理詰めの処理に当り、専務森の石松は諸事を周到に処理し多くの子分衆の手先となっての影の役目を果したものである。

三十年後の今日言える菊池温泉掘削成功の根源の一つは、会長のひたむきな温泉を求める意慾に、商工会首脳が絶妙のコンビでこれに対応して結束を固め、商工会の名に於て事業のイニシアチブを握り、関係者の協調と町当局や土木組合等の側面援助などの総てが成果をもたらしたものである。

湧泉後の温泉郷構成は急ピッチで進捗し、未完成ながら落付きを見せ始めた数年後に、観光協会員や年々数を増す旅館経営業者有志の肝入りで、正観寺前の広場に薬師堂、村川翁胸像、掘削記念碑が建立され盛大な落成を祝う催しがあった。

（この事は私の商工会退職後の出来事で、全く関係していないので詳細については詳でない。）

今にして遺憾に思われる事は、胸像その他の建立に携った発起人の方々が建立そのことで万事終れりとしてその後の観光的措置については何等考えず、年一回の温泉祭で薬師堂の扉が開かれ、祭壇にささげ物をするだけで、大衆向け

の観光資源として生かすことを置き忘れたことである。

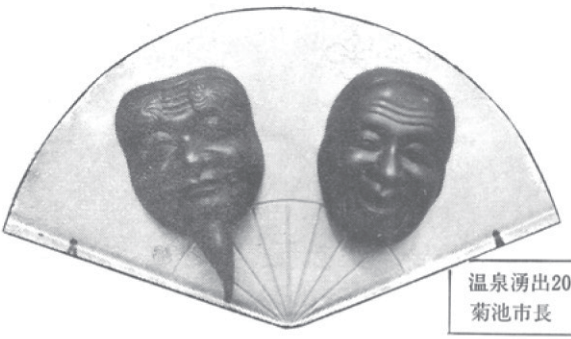
薬師如来、胸像、そして夢物語りを観光資源として温泉物語に深さを持たせて、大衆の気持を集めることに就いて慎重に考うるべきではなかったかと思う。今からでも遅くはない。

（参考）

正観寺境内の巨樟の傍の霊水は武光公没年後、代々出陣の折、大公の武勇にあやかり、ここの井戸でお茶を飲み武運を祈ったといわれている。そのことにまつわり霊水と呼ばれて万病に効くと今に伝えられている。

四十九年四月一日

温泉湧出二十周年記念式典で、村川、有田、川瀬の先輩に私も加えられて、温泉開発に対する表彰が木下市長から左記感謝状贈呈によってなされた。



温泉湧出20周年記念
菊池市長　木下　堅

感謝状

あなたは菊池温泉の掘削にあたり献身的に事業の企画、土地の選定、財源の念出等幾多の困難を克服され見事温泉湧出に成功されました。

その功績は誠に多大で市民の深く感謝しているところであります。

依て温泉湧出二十周年記念式典に当り茲に記念品を贈り深甚なる感謝の意を表します

昭和四十九年四月一日

菊池市長　木下　堅㊞

この感謝状は前記四氏に渡されたものであるが、受賞者の一人としての私はその光栄を肝に銘ずると共にその他の表彰者以外の関係協力者に相済まぬ気がしてならなかった。

それから七年経過の五十五年二月東京転出の私は隈府二十日会からの感謝状を拝領した。

二十日会の二十六年三月二十日の例会の席で村川会長の、

〃私は温泉を掘ります。〃

の温泉掘削願望の最初の発言に就いては前にも述べた通りである。

二十日会の感謝状は隈府二十日会常任幹事としての私に下さったものである。

感謝状

あなたは昭和二十六年八月隈府二十日会
発足以来二十九年の永きに渉って常任幹

事として本会の和熟発展に尽粋され、就中昭和二十九年の菊池温泉湧出に関するあなたの御功績は末長く郷土に銘記されるところであります。

今回突然の東京御転出に当り一同惜別にたえず尽きぬ感謝と懐旧の思いをこめて茲に本状と共に記念品を謹呈して微意を表します。

昭和五十五年一月二十六日

隈府二十日会会員一同

十年前の菊池市の木下市長、そして隈府二十日会からの感謝状に深い感銘を覚えると共に、私として何かなさねばならぬ事が残されている様に思われてな

らないのであった。

温泉湧出三十周年を迎て私の頭に残っている事は、温泉掘削事業に連関した事実の全容を忠実に編集して後世に残す責務を果すことではないかという事である。

ところで私が深く感ずる事は、人間十年もすれば気憶は怪しくなるもので、フィクションとノンフィクションが混同して事実がそのまま残されないことが多いと云うことである。

卑近の例をあげると、温泉湧出後の隈府会館落成式とか、村川会長名誉市民祝賀会などで、知名士の祝辞や挨拶の内容が事実と飛び離れたものもあった。

繰返し申したい事は、温泉開発に当って中心的立場にあった村川会長への絶賛は当然の事で、何等異議を感じないが、何ら自己強調もせず、管ら郷土発展の熱意に生きた多くの協力者の尊い存在を見落してはならぬと云う事である。

温泉開発三十周年を迎えて村川会長、有田副会長、川瀬理事長に続く多くの

協力者の熱意を克明に記述し、次の世代に申し送るべきではないだろうかと思うものである。

私は商工会専務理事として会長、副会長、理事長の側近にあって、掘削事業推進のため終始していたので事実の総てを知り尽しており、幸い事業進展の顛末を克明に書き残した貴重な記録を手許に保有している。

（この「保有の記録」は将来市の文化財的扱にしてほしい。）

三十年経過の今日、当時の協力者の方々の「尊名」を厳たる事実として後世に書き残すことは私の責務であり又誇りである事を自賛して拙筆をとったものである。

あとがき

菊池温泉にとって昭和二十九年は英語の、Generationの年で英和辞典には一代（三十年）・時代・世代の訳があって物事の区切をつける年だとなっている。

ＮＨＫが五十八年をテレビのゼネレーションとして特別企画放映をした事は周知の事で、菊池温泉関係者にあってもこのゼネレーションを見逃す訳には相成らぬと思うので、私は期する所があって菊池温泉掘削の記録を基にして「菊池温泉掘削物語」の出版を決意した。

幸にも当時の記録がそのまま私の手許に残っている。

掘削事業のイニシアチブを持った商工会の事業推進の全容を、掘削直接関係者ご当人そしてその子・孫さんに書き残す事の意義を痛感するので、自分の墓石建立に代えて相当の負担覚悟の出版計画に幸い老妻（菊枝）も快く同意して

くれたので躍動の拙筆を走らせたものである。

戦後再出発の隈府商工会は、特に税務対策・金融対策・社会諸問題解決の重荷を背負いながら町発展の願望の温泉掘削の難工事を遂行し、その足跡は後世に伝えるに足るものであると思うと同時に温泉問題と直接関係しないが、次代に残したい次の三件を追記する事にした。

(1) シャープ勧告と臨時税理士
(2) 国金償還組合結成県下第一号
(3) ダイヤル自動化県下第一番

起稿完了して強く寂寞を感ずる。年老いて交友との疎遠は増すばかり。亡き両親・兄弟・姉そして早世の愛しき子等への追慕は深まるばかり。

いずれは、既に保有の菊池市隈府

お祝に贈られた傘をさして（傘寿を迎えて）

立石の菩提寺西覚寺の皆が眠る霊廟へ。　合掌

お断り

温泉掘削と前後して菊池市制施行があったため、著書の中で隈府町と菊池市、隈府商工会と菊池商工会など前後・混同の箇所がある事を御勘弁頂き度く、又著書に関係写真の挿入が少いのは、私が記念にと編集して保存していたアルバムをMさんにお貸しして、心ならずも返却して貰えず挿入不能の事をお許し願います。

追記

商工会の足跡

シャープ勧告と臨時税理士
国金償還組合県下第一号
ダイヤル自動化県下第一番

私と商工会

自　二四・八
至　三二・五

昭和二十二年正月、二ヶ年の苦役を卒えシベリア抑留から復員、二十四年夏、菊池冷蔵社長川瀬さんの勧めで全く未経験の商工会事務を引受けた。

商工会の首脳スタッフは、会長村川、副会長有田、理事長川瀬の皆さんで、会員は大凡二百五十名、会費は最高百円、最低二十円の貧乏所帯で、私の最初の給料は月二

千五百円であった。この事を見兼ねた川瀬理事長は、手透きの時は菊池冷蔵の業務手伝を条件に、月五千円の負担をして下さって、事務所は菊池冷蔵の一隅に机を置き電話使用その他全部無料提供であった。

川瀬さんと私は子供時代から兄弟同様の間柄だったので、すべてを気安にその好意に甘ずることが出来たのであろう。

再出発の商工会には異様に活気が溢れていて、次から次に新らしい対策がとられた。

私が商工会にお世話になってから商工会理事会の中に、

税務調整委員会
金融対策委員会

が設置され意欲充実の活動がなされ、次で温泉問題促進のため、

温泉掘削特別委員会

が発足して、意欲充実の毎日で商工会は活気に満ちていた。

私の商工会在任中の思い出は

(1) 菊池温泉掘削事業に熱中した事。
(2) 終戦後の会員のため税務調整に当って税務署との協調を図った事。
(3) 金融対策のため償還組合を創設した事。
(4) 県下一番のダイヤル自動化を図った事。

これらの解決には創意工夫が必要で、商工会員の協力なしには出来ぬ事ばかりで、商工会史に深く書き残す事柄だと思う。

✣ シャープ勧告と臨時税理士

第二次世界大戦後の荒廃した世相で、際立っていたのが経済混乱と極度のインフレーションであった。

そのインフレによる重圧をもろにかぶったのが零細業者で、特に身近に感じたのが税金問題であった。

このインフレに対しドッジラインが採られ、その線に沿ってシャープ勧告となった。

(1) 直接税中心の税制確立。
(2) 間接税の合理化。
(3) 地方税制の強化。

によってインフレ停止と、資本蓄積能力を高めることを目的としたもので、現行税制の自主申告制度の創めであって、当時の日本経済にとって相当の荒療治でもあった。

インフレに振りまわされている商工業者にとって、シャープ勧告による税制改正はその真意が理解されず、深刻な戸惑を感じたもので、当時にあってはその困惑も亦止むを得ぬ事であったであろう。

新税法の施行と同時に、菊池税務署が当地に開所され新税法による税務行政がなされて納税の方法が一変した。

新税法は賦課制度から自主申告制度に変ったので、新税法に馴れない納税者と新税法を上段に振りかざす税務署側との間に、絶え間なくトラブルが起きるのも止むを得

ぬことであった。

村川会長は菊池税務署の菊池誘致には特に力を入れられた程で税務問題には積極的で、有田副会長を長とする税務調整委員会を設けて、年間三百数十件の税金問題に関し、委員会をあげて折衝を頻繁に重ねたものであった。

インフレによる貨幣価値のバラ付き、新らしい申告制度に不馴などで、商工会員の中には「税金が法外だ」の見解も強く、急造署員の不勉強もからまってトラブルが絶えず、間断なく税務調整折衝が調整委員会によってなされたものであった。

税務署にあっては、署長始め全署員が商工会の税務調整委員会を高く評価して心よく折衝に応じ、話合いに依る修正という税法運用がなされ相当数の異議申立が片付いて、商工会の株は上昇したものであった。

商工会専務理事である私は、出来るだけ異議者に同伴しての税務署へ出頭のお蔭で、署長外署員の皆さんと昵懇の間柄となって、大いに税法の勉強をさせて貰った。

その為か、昭和二十六年から商工会退職時まで、確定申告時には税務署長から臨時税理士の辞令が私に交付され、商工会員の為の妥当な申告書作成の手助けをさせてもらった。

税務署と商工会の一体となっての協力関係は、当時だから許されたのかも知れないが、商工会活動が会員の立場を守り、その

活動が当時の税務混乱を緩和したものとして商工会会史の一齣だとして残しておきたいものである。

✣ 国民金融公庫償還組合創設（県下第一号）

感謝状

隈府商工会専務理事

高野　徳次殿

貴殿は昭和二十七年国民金融公庫隈府償還組合の創設以来、この運営と本町商工業者の国民金融公庫融資斡旋に、不断の御努力を致され金融緩和の面を通じて本商工会発展に貢献されました御功績は極めて大きく、特に県下最優位の融資成績を挙げられたことは、これ偏に貴殿の御努力の賜であります。

依て茲にその御努力に対し記念品を贈呈して謝意を表します。

昭和三十二年五月十日

菊池商工会会長

有田　義行　㊞

この感謝状は商工会退任の際戴いた感謝状の全文で、記念の置時計は居間の机上で聊かの狂いも見せず、三十年近い時を刻んでくれている。

戦後混乱の経済恐慌の中で中小零細企業者が特に窮屈を感じたのが、金融事情であった。

当時の地元銀行は事業別ランクを定めて、窓口を絞る抑制融資制をとっていて、多くの業者はこの金融政策に泣かされた。

政府金融機関の国民金融公庫、商工中央金庫は開設後日浅く、地方業者の親しみは薄く利用者も小数に限られていた。

商工会にあっては窮状打開策として、会内に金融対策委員会を設け、川瀬理事長が委員長となって融資対策を積極的に進め、次の力点を定めた。

(1) 地元銀行の融資枠拡大。

(2) 国民金融公庫・商工組合中央金庫の窓口開扉。

(3) 講会による庶民相互融資の健全育成。

右三点について、

地元銀行に対しては(イ)業種別ランクの解去。(ロ)融資額引締め緩和。(ハ)特殊融資の契約促進。など対策委員会は多忙であった。

一方、銀行融資難を補うものとして、健全な講会の育成に努めた。

講会に深い経験の持主の川瀬理事長が健全講会の運営担当の労をとり、年を経るに従って商工会講又は川瀬講と謂われた。

講会については、銀行筋から違法金融の声も聞かれたが、身近な金融法なのでプラスする所が多く、長期に渉ってトラブル一つ残さず関係者の胸に刻み込まれている。

川瀬翁没後、翁を偲ぶ講会関係者一同の謝恩追憶の気持が結集して、菊池冷蔵の事務所入口に座像建立となって、川瀬講運営による金融対策の成果が残されている。

地元銀行との折衝、講会運用と並行して二十五年夏に、国民金融公庫との取組が始まった。

昭和二十四年、中小企業の政府金融機関として国民金融公庫が開所されたが、地元銀行同様近づき難い門であった。

会長、委員長の命に従って、熊本市横紺屋町の熊本商工会議所四階に間借の国民金融公庫熊本支店を訪れたのは、開所間もない時であって定着感のない寒ざむしい熊本支店であった。

支店長に一応の挨拶をおえて、早速融資の件をお願いすると、全く意外な返事が跳ね返ってきた。

それは、

「菊池の者は借りた金を返済する義務を感じない者が多い。引揚者更生資金融資の債務者の七十%がその返済をしない。これでは融資は考えられない」

との味気無い回答で、スゴスゴ引き下るより外はなかった。

困り果てた時、私の脳裡を瞬間走った打開策は「懇願説得より当方の態度で当る」という閃きであった。

帰宅後、会長、金融対策委員長と意見交換の末「町内有力者数十名の償還裏付けの

保証誓約書」を用意して、支店長を説得するという私の方策が採用され、早速町内の保証力充分な三十名の方々を訪問して誓約書への署名捺印を懇願して廻り、何日かで誓約書は完成した。

自信を胸一杯にして国金支店長に誓約書を提示して、地域を挙げての償還保証を力説したのに対し、無愛想な支店長の返答は「考えて見ましょう」というあっけなさであったが内心ホットした。

しかし数ヶ月経っても何の反応もなかった。

そして三十五年、熊本市安政町四丁目に鉄筋造りの国金熊本支店が新築開店され、支店長の更迭があった。

内田新支店長は話の良く判る方で、店長と私との話合は誓約書提出の気持が通じていたのか、何の抵抗もなくスルスルと進捗して、年三回の総合貸付調査による貸付が始まることとなり、誓約書に代る、償還組合を設置して借入者お互が保証人となる方法が出来上った。

第一回融資に伴い隈府償還組合が誕生し、県内第一号の「国民金融公庫償還組合」となり、この方式の組合が県下に次々に浸透し、現在県下に相当数となっていると思われる。この隈府国民金融公庫償還組合が県内第一号である事を銘記しておきたい。

勿論、国金融資成功率も県下で最優秀である事は申す迄もない。

私は全力をあげて蔭の動きに務め

貸付調査応答のコツ
資料整理の仕方
調査資料の集め方

などの助言やリハーサルや調査員の取りなしなどの裏方の苦労をした。

当時、職務逸脱とも思われる私の動向は、戦後の混乱の中での事であって、「俺は商工会を背負っているんだ」などの意気込みが潜んでいたのかもと三十年後にその思いがする。

✣ ダイヤル自動化県下第一番

昭和五十三年七月二十六日

天草郡栖本町の電話がこの日にダイヤル自動化された。これで県内の電話は九州で初めて、全国でも十二番目の百%ダイヤル自動化となったとの新聞記事を見た。

この日から二十一年前の昭和三十二年三月三十一日この日は菊池電報電話局が熊本市より一年早くダイヤル自動化がなされた日である。

隈府電話局は、昭和二十七年六月、中央通隈府郵便局に併置され、狭苦るしい郵便局

の一隅で電信電話業務がなされ、万事不便であったであろう。局長制施行による着任の新局長の思いは殊の外であって、心ある地元民特に商工会員の思いも同じであった。

記録がないので確言はできないが、二十八年の春の頃、新局長の商工会への来訪があって、専務理事の私に現在の電話局の不備不便の実体と今後の対策に就いて突込んだ話があった。

この旨を村川会長、有田副会長、川瀬理事に伝え、町当局と話合うことの同意を得て、役場に伺い現状打開の必要性を話合った結果、役場から中村助役、議会から佐藤議員、商工会から私が同行して、熊本市の九州電気通信局長に面談、局舎改築とダイヤル自動化の陳情を行ったが、局長の返答は余りにも冷たく、「隈府局の改修は県内十三番である」と、実情無視の発言には唖然として返す言葉もなく早々に引揚げたのであった。

十三番目という事は、局舎改築はあと七、八年後になりはせぬかと受取られた。

勢い込んでいた中村助役、佐藤議員は次の打開策を講ずる術もなく、万事忘却の有様でその後の動きは残念ながら全々見受けられなかった。

私は「単なる陳情は無力である。局長を動かす力を見出しその力に依るべきだ」と考え、局長を動かす強力な手段は特殊のコネによるより外はないとして、その絶対の

力を元逓信総裁の東海大学総長松前先生に絞った。

松前先生とはある事から深い絆が結ばれているものと信じ切って、次の内容の手紙をずうずうしく書いた。

隈府電信電話局の現情と、熊本市の九州電気通信局長への陳情の内容と、にべもない局長の返答について特別の御考慮御支援をお願いしたいというものであった。

先生からは何のお返事もなく絶望的な諦めの何箇月かが経過した。

その後、昂奮を感ずる隈府局長の来訪があって次の喜報があった。

「在任六ヶ月の通信局長の定期外の転任があって、後任は松前先生の旧部下が着任され、隈府電信電話局の局舎改築とダイヤル自動化が一挙に決定した」とのことで、予期せぬダブル喜報を局長と喜び合い一献を酌み交したものであった。

先生からは何の連絡もなかったが、私の執った手段が有効であったものとして私の喜びは一入で、七、八年後の順番を飛躍して新局舎とダイヤル自動化が一挙に実現したので、お役に立って良かったと内心喜びに堪えなかった。

私は事の顛末の公表を差控えていたが、熊本市より一年早い県下第一番目のダイヤル自動化に対し、三十年経過の今日改めて松前先生の御厚意を公表して厚く謝意を表するものである。

事はあくまで商工会をバックにしたものであって、商工会専務理事であったからこそ出来たものと思っている。

局舎落成並にダイヤル自動化の祝宴は、県下最初のダイヤル自動化でありながら仰仰しいセレモニーもなく、一部関係者のみであって町民の反響も少なかった。

その後龍門地区に公衆電話架設完了後、菊池ホテルで開催の竜門地区有志による謝恩会の席上で、ホテル支配人の立場で同席の私を原本県議は主客の部長に紹介されたに対し、部長は笑を浮べて、

「原本さんは何も御存知ないですネー。今度の公衆電話は高野さんが引いたんですヨ」

との部長発言に一同啞然であった。

私の工作は？

肩書による交渉より、ホテル支配人の私のヒューマニティーの交渉が有効であったことを結果が証明してくれた。

私はこの事実で物事処理のコツを学んだように思う。

それから三十年、電話はプッシュホン・転送電話と次々と新らしい時代を迎えている。今日三十年前の電話物語りに教えられる所が多いように思われる。

菊池温泉掘削物語

昭和五十九年十月十五日発行

著者　高野徳次

東京都品川区南品川五―六―二
シャンボール品川八〇九
電話（〇三）四七四―八五三五

印刷　㈲三声社
東京都世田谷区三軒茶屋二―十一―十